

テ本按ノ如ク決スルモ毫モ可ナラサルヲナシ

○一番玉乃時既ニ正午ヲ過ルニヨリ暫時休憩ノ爲メ散會センコトヲ

建議ス

○議長 暫時休憩セン散會セヨ

午後零時二十分閉場

○議長 午後第二時十二分開場

所勞ニ依リ欠席

○議長 同

○議長 同

○議長 午前引續ノ會ヲ開ク

十四番 黒田 清綱

河田 景與

柴原 和

○三十番鶴田 抑々各國ノ法律ニハ或ハ區別ナクト掲クルモノアリ

ト雖モ本法ハ全ク其區別ヲ立テサルハ其既ニ外國ノ字ヲモ删除シ

タルヲ以テスルモ知ル可シ然ニ更ニ區別ナクノ字ヲ掲ケントスル

ハ甚々体裁ヲ失スル者トス

○議長 第四條十三番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二人

○議長 少數ニヨリ十三番ノ修正ハ消滅ス

第五條

第二章

第一節

第六條

第七條

第八條

第九條

第十條

○第十一條

第二節

○第十二條

第十三條

第十四條

第十五條

○第十六條

第十七條

第十八條

第十九條

第二十條

第二十一條

第二十二條

第二十三條

第二十四條

第二十五條

第二十六條

第二十七條

第二十八條

第二十九條

第三十條

○二番齋藤利行 本按第一讀會ハ向ニ内閣ヨリ下付セラレタル按ヲ以テ之ヲ開キ終ニ委員ニ付托シテ該按ヲ修正スルニ決セリ爾後委員修正報告按己ニ成リ各議官ニ頒布セラル今ヤ下付ノ按ト修正按トノ二本アリ將タ何レヲ以テ本場ノ議按ト爲スコキヤ未タ議長ノ宣告ヲ得サルヲ以テ敢テ問フ

○議長 修正按ヲ以テ本按ト爲ス

○二番齋藤利行 目錄ハ如何

○議長 是モ亦然リ目錄ヨリ第三十條マテ本按ヲ可トスル者ハ起立

ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ次ニ移ル可シ

第三節

第三十一條

第三十二條

第三十三條

第三十四條

第三十五條

第三十六條

第三十七條

第三十八條

第三十九條

第四十條

第四十一條

第四十二條

第四十三條

第四十四條

○議長 第三十一條ヨリ第四十四條マテ本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ次ニ移ル可シ

第四節

第四十五條

○廿六番伊丹重賢 本官ハ第一讀會ニ登場セサリシヲ以テ内閣委員ニ對シ質疑ヲ爲サントス本條ノ裁判費用ノ處分ハ只身代限りニ止ルヤ
○番一保村田 然リ即チ民事ナレハナリ

第四十六條

第四十七條

第四十八條

第五節

第四十九條

第五十條

第五十一條

第五十二條

第六節

第五十三條

第五十四條

第五十五條

第五十六條

第五十七條

第七節

第五十八條

第五十九條

第六十條

第六十一條

第六十二條

○議長 第四十五條ヨリ第六十二條マテ本按ヲ可トスル者ハ起立ス
可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ次ニ移ル可シ

第八節

第六十三條

第六十四條

第六十五條

第三章

第六十六條

第六十七條

第六十八條

第六十九條

第七十條

第七十一條

第七十二條

第七十三條

第七十四條

第四章

第一節

第七十五條

○一番玉乃世履

本條第一項ト第二項トノ間ニ於テ第百十一條ニ牽引シ

テ生スル不論罪ノ一項ヲ加ヘントス其文ハ罪ヲ犯サントシテ已ニ

其事ヲ行フト雖モ遂ニ其事ヲ遂クルヲ能ハサルノ所爲ハ其罪ヲ論

セスト其理由ハ乃チ第百十一條ヨリ生スルナリ然ルニ該條ハ裁判

官ノ尤モ困難スル所ニシテ其文ニ云ク罪ヲ犯サント謀リ又ハ其預

備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スル

ニ非サレハ其刑ヲ科セス又第百十二條ニ罪ヲ犯サントシテ已ニ其

事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時

ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ストアリ抑モ未遂犯罪

ノ明文アルハ今日ヲ以テ始トス蓋シ其未遂犯罪ニ於テ判者ノ困難ナルヤ此ニ人ヲ斬ラントシテ刃ノ及ハサルハ一等若クハ二等ヲ減ス其趣旨固ヨリ美ナリト雖モ又之ニ疑似ノ者アリ例ヘハ人ヲ毒殺セントシテ其人死ニ抵ラサルハ一等二等ヲ減スルノ比ニアラスシテ之ヲ無罪ナリトス可キモ既ニ其行爲ニ顯ハレタルモノト其心中ニ存スルモノトノ區別ニ於テハ法律ニ明敏ナル人ニアラサレハ恐クハ誤テ幾分ノ罪アリトスルモ亦知ル可ラス若シ之ヲ掲クルヲ要セスト言ハ、不論罪モ亦同ク掲クルヲ要セサルニアラスヤ蓋シ此一項ヲ插入セントスルノ源由ハ當初洞アソナ―氏ニ商量シタル日本刑法草按第二百二十八條重罪ヲ犯サントスル所爲アリト雖モ其事物ノ性質又ハ施用ノ方法ニ於テ害ヲ爲スノ理ナク若クハ害

ヲ爲スト雖モ本犯ノ目的ヲ遂ク可キ理ナキ時ハ止タ現ニ加ヘタル毀傷損害ノ罪ヲ論スト云ノ意ヲ以テ之ヲ補ハントスルナリ洞アソナ―氏ハ著名ノ明法家ナリ其日本刑法草按ニ掲ケタルモノ亦敢テ不可ナキヲ信スルナリ

○廿六番 伊丹重賢 賛成

○議長 一番ノ修正説ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○外一番保 村田 一番ノ修正説ニ對シ簡單ニ之ヲ辨セントス元來之ヲ

刪除セシ理由ハ其性質方法共ニ罪トナラサルモノニシテ所謂佛語ノ(クリーム、アンコーヂフ)ト云フ乃チ人ヲ呪詛シ又ハ水ヲ飲マシメテ其人ヲ殺サントシ又ハ燈心ヲ以テ首ヲ縊セントスルト同一ノモノナリ是等ハ決シテ罪トナル可キ所爲ヲ構成セシモノニ非ス故

ニタトヒ有心故造ノ所爲ト雖モ其罪トナラサルコトハ刑法ニ掲ケサルナリ洞アソナー博士ハ理論ノ一偏ヨリ之ヲ掲ケタルナリ然ルヲ牽強シテ之ヲ第七十五條中ノ一項トシテ加ヘントスルハ更ニ了解セス如シ強テ之ヲ加ヘント欲セハ未遂犯罪ノ節ニ於テスルヲ至當トス然レモ此修正ノ如キハ到底無用ノモノナリ

○議長 一番ノ修正說ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者二人

○議長 一番ノ修正說ハ少數ナルニヨリ消滅ス

第七十六條

第七十七條

第七十八條

第七十九條

第八十條

第八十一條

第八十二條

第八十三條

第八十四條

○議長 第六十三條ヨリ第八十四條ニ至ルマテ本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ次ニ移ル可シ

第二節

第八十五條

第八十六條

第八十七條

第八十八條

第三節

第八十九條

第九十條

第五章

第九十一條

第九十二條

第九十三條

第九十四條

第九十五條

第九十六條

第九十七條

第九十八條

第六章

第九十九條

○議長 第八十五條ヨリ第九十九條ニ至ルマテ本案ヲ可トスル者ハ
起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ次ニ移ル可シ

第七章

第百條

第百一條

第百二條

第百三條

第八章

第一節

第百四條

第百五條

第百六條

第百七條

第百八條

第二節

第百九條

第百十條

第九章

第百十一條

第百十二條

第百十三條

○議長 第百條ヨリ第百十三條ニ至ルマテ本案ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ次ニ移ル可シ

第十章

第百十四條

第百十五條

第二編

第一章

第百十六條

第百十七條

○二番齋藤利行

本官曾テ第百十七號議案讒謗律開議ノ時ニ方リ該案ハ刑法創定ヲ竣テ後チ發スルモ未タ晚シトセストノ議ヲ發セシニ彼ハ急施ヲ要スル旨ヲ以テ本官等修正委員ニ膺リ多少腦漿ヲ費耗シ

既ニ其報告ヲ爲セリ今茲ニ彼是對比スレハ本案ニ不備ヲ生ス其故何ソヤ蓋シ讒謗律ノ如キハ單行ノ法律ト爲サスシテ之ヲ刑法ニ入ル、ヲ可トス當初司法省ニテ起草セシ原本ヲ以テ其參照斟酌ニ供スルトキハ其意全備スルモノ、如シ仍テ第百十七條ニ天皇三后皇太子ノ御前ニ於テ公然不敬云々ト爲シ其第二項ハ司法省ノ原按第百三十二條第二項ヲ插入シ其御前ニ非スト雖モ刊行ノ文書又ハ公然ノ演說ニ於テ不敬ノ所爲アルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スト爲サント欲スルナリ而シテ第三百五十八條ニ參照スルニ該條ニハ即チ其身分ノ區別ヲ論セス一般ニ冠ル所ノモノナリ豈ニ別ニ讒謗律ヲ單行スルニ及ハンヤ抑々本按ヲ修正スルハ容易ノ業ニアラサルヲ以テ本官ハ反覆之ヲ熟讀シ

且ツ又外國ノ律ヲ参照シ細思熟念以テ其權衡ヲ比較セシニ肯テ不平均ナシト認メタルヲ以テ此說ヲ爲ス今ヤ幸ニ修正讒謗律ハ未タ議場ニ提出セサルニ當リ是ニ論及シ更ニ本條ニ一項ヲ加ヘントスルナリ

○議長 二番ノ動議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

第百十八條

第百十九條

○二番齋藤利行 本條モ亦同シク修正ヲ加ヘントス既ニ第百十七條修

正ノ說ハ消滅セシニ今ニ至リ復之ヲ提出スル恐ラクハ無用ニ似タリト雖モ本官ノ熱心スル所ハ本條ニ於テ最モ多シトス仍テ本條ニ於テ皇族ニ對シ刑行ノ文書又ハ公然ノ演說ニ於テ不敬ノ所爲アル

者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ストノ修正ヲ爲サントス

○議長 二番ノ動議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

第百二十條

○議長 第百十四條ヨリ第百二十條ニ至ルマテ本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ次ニ移ル可シ

第二章

第百二十一條

第百二十二條

第二百二十三條

第二百二十四條

第二百二十五條

第二百二十六條

第二百二十七條

○外一番保村田

本條ハ當初小官モ輕々ニ看過セシカ今ニ至テ原按ノ優レルコヲ見出セリ抑第二百二十條ヨリ以下ハ國事犯ノ事ナリ輕罪ニ常事犯ハ重禁錮國事犯ハ輕禁錮タリ蓋シ本條ヲ修正セシハ第五百十一條ト重複スト思慮セシニ因ル者ナラン然レモ本條ハ國事犯ナリ一般ノ刑ト同一視スルコヲ得ス仍テ原按ノ如ク「犯人ヲ藏匿シ」ノ字ハ刪ル可ラストス

○十三番補田英世

本官モ亦原按ニ復スルコヲ希フ「聚會所ヲ給與」トハ亂ヲ謀ルコニシテ尙ホ亂前ナリ而シテ「隱避セシ」トハ亂後ノ事ナレハナリ

○十番水木成美

本官モ修正委員ニ膺リ刑名ノ差違ニ注意セスシテ之ヲ刪除セシカ爾后更ニ熟閱スルニ若シ之ヲ刪ラハ科ス可キノ刑名ナキニ至ル甚タ不都合ナリ且亂ノ前後ノ辨明ハ十三番ノ說ニ盡キタレハ肯テ贅セサルナリ

○三十番鶴田皓

內閣委員ニ問フ但以下モ原按ニ復セントスルカ

○外一番保村田

然リ之ヲ掲ケサレハ親屬ヲモ罰スルニ至ラン若シ第五百十一條ニ參照回顧スルコヲ得スンハ之ヲ置カサルヲ得サルナリ元來之ヲ刪除スルノ論ハ前後ノ字ニアリ若シ前ナレハ罰スルニ

歸スルユヘ前後ニ於テハノ文字ハ之ヲ刪リテ害ナシ

○三十番鶴田 本官モ修正ノ委員ナリ然レモ少シク意見ヲ異ニス抑

モ但以下ヲ刪除スル所以ノ理由ハ例ヘハ聚會所ヲ給與スルハ事前

ニアラサレハ之レ無キヲナリ若シ前後ヲ同一ニシ但書ヲモ同一ニ

スルトキハ其聚會所ヲ給與スルモ親屬ナレハ罰セスト爲スハ不權

衡ト言フ可シ彼ノ賭博又ハ阿片煙ノ律ノ如キ其房又ハ器具ヲ貸與

スルモノハ罰アリ而シテ國事犯ニ聚會所ヲ給與スル者ハ罰ナキハ

甚タ不都合ナリトス仍テ之ヲ刪除セリ夫レ藏匿ノ一事ハ犯ノ國事

常事ニ關ハラス元同一ニシテ所謂窮鳥懷ニ入ルノ類ナリ然ルニ例

ヘハ十年ヲ過キテ犯人ノ島ヨリ遁レ來リタル者アランニ其罰ハ既

ニ消滅ニ歸スルモ其親屬ハ猶之ヲ罰セサルヲ得サルニ至ル豈不可

ナラスヤ若シ但書ヲ存スルトキハ此ノ如キ不可ナルモノアルヲ以
テ特ニ修正セシナリ素ヨリ誤テ刪リタル者ニアラス

○十番水本 成美 本官ハ内閣委員ノ説明ニ賛同セシト雖モ但書ハ復スル

ノ意ニアラス「前後ニ於テ」モ刪ルノ說ナリ畢竟刑質ノ變スルハ不
可ナリトスルノミ

○議長 十三番ハ但書以下ハ如何

○十三番楠田 英世 是ハ存セント欲スルナリ本官ノ旨意ハ元來親屬ニシ

テ其父又ハ叔父等ノ潜匿ヲ自訴スルヲ得サルハ人情ナリ且藏匿
以下ハ事後ノコニシテ特ニ輕禁錮ハ輕罪トス故ニ之ヲ存スルモ不

可ナシト爲ス

○外村田 保 三十番ノ說ニ島ヨリ歸來セシモノヲ藏匿スルモ刑ニ

○處セラル、コアル可シト云フト雖モ此ノ如キハ實際之レ有ルコナシ何トナレハ流刑ハ十二年ヨリ十五年ナリ故ニ若シ之ヲ藏匿スルモ決シテ其罰アラサルナリ但シ治罪法ニ於テ輕罪ノ期滿免除ヲ與フルノ例アリ其期ハ僅ニ三年ニテ消滅ス可シ元來一罪ヲ犯セハ一刑ナリ國事犯ハ國事犯ノ刑ヲ科ス可キナリ且又前後ノ字ニ付テ論セハ藏匿隱避ハ前ニアルコナクシテ給與ハ後ニアル可ラス夫ノ但以下ハ給與ニ關スルコニアラス聚會ト云フハ數十人ナリ其内ニ他人一人アレハ是レ親屬ニアラサルナリ故ニ給與ノコハ但書ニ包含セス此理由ニ由テ設定セシモノナルヲ以テ之ヲ刪ルハ不可ナリトス

○三十番 鶴田 皓 辨明其旨ヲ解セス前後ノ字ヲ前ニ掲ケテ之ヲ一括シ

タル但書ニ給與ハ包含セスト云フト雖モ其聚會者ハ皆親屬ノミナルモ料知ス可ラス此ノ如キ曖昧タルコハ法律ニ掲ク可キモノニアラス

○十三番 楠田 英世 内閣委員ト三十番トノ説ニ差違アルハ此修正ニ方リ兩委員ノ協議未タ合體セサルモノト認ム故ニ本按ハ後日ノ議ニ付セラレンコヲ建議ス

○議長 十三番ノ建議アリシ如ク修正委員ノ説ニ異同アリ又十三番ノ賛成者ノ説モ同シカラス仍テ本按ヲ再修正ニ付托セントスルニ同意ノ者ハ起立ス可シ

○議長 起立者十五人
多數ナルニヨリ再修正ニ決ス

○第二百二十八條

○議長 第二百二十一條ヨリ第二百二十八條ニ至ル第二百二十七條ヲ除ク
外本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者十五人

○議長 多數ナルニヨリ本按ニ決ス本日ノ議ハコ、ニ止ム散會セヨ
午後第五時閉場

○議長 多數ナルニヨリ本按ニ決ス本日ノ議ハコ、ニ止ム散會セヨ
午後第五時閉場

元老院會議筆記明治十三年三月三十日

○第七十四號議按刑法審查第二讀會三月廿九日ノ續

議長細川潤次郎
代理

出席議員

- 二番 齋藤 利行
- 三番 大久保一翁
- 四番 津田 眞道
- 九番 神田 孝平
- 十番 水本 成美
- 十一番 伊集院兼寛
- 十三番 楠田 英世

○議事録
○議事録
○議事録

- | | |
|-----|-------|
| 十四番 | 黒田 清綱 |
| 十五番 | 大給 恒 |
| 十七番 | 秋月 種樹 |
| 十八番 | 東久世通禧 |
| 十九番 | 津田 出 |
| 廿一番 | 河瀬 眞孝 |
| 廿二番 | 福羽 美靜 |
| 廿四番 | 山口 尙芳 |
| 廿五番 | 河田 景與 |
| 廿六番 | 伊丹 重賢 |
| 廿七番 | 楠本 正隆 |

○議事録
○議事録
○議事録

- | | |
|-----|------|
| 廿九番 | 柴原 和 |
| 三十番 | 鶴田 皓 |

内閣委員 番外 太政官權大書記官村田 保
 午前第九時五十分開場

○議長 議長他ノ公用欠席ニヨリ本官代理シ即チ第百七十四號議按
 第二讀會ノ續會ヲ開ク議決ハ都テ昨日ノ体裁ニ遵フ可シ

第二節

第百廿九條

第百三十條

第百三十一條

第百三十二條

○三十番鶴田 本條ニ故ヲニノ字ヲ刪リタルハ名例中ニ無用ナルヲ

以テナリ以下總テ之ニ倣フ但シ過誤失錯ノ其明文アル分ハ特別ナ
リトス

第三百三十三條

第三百三十四條

第三百三十五條

○議長 第二章第二節第二百二十九條ヨリ第三百三十五條ニ至ルマテ本
按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ次ニ移ル可シ

第三章

第一節

第三百三十六條

第三百三十七條

第三百三十八條

第二節

第三百三十九條

第四百十條

第四百十一條

○二番藤利行 本條ニ於テモ前會既ニ端緒ヲ發セシ如ク修正ヲ加ヘン

トス其意ハ當初司法省ノ草按第百六十九條第百七十條ヲ採取シ即
チ第百四十一條官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ

以テ侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖画又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス文書演說其他ノ方法ヲ以テ官吏ノ職務上ニ於テ不正ノ所爲アリト讒毀シタル者其事實ヲ證明スルヲ能ハサル時ハ三月以上三年以下ノ重禁錮十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス但其職務上ニ關セサル事件ニ係ル者ハ第三百九十八條ノ例ニ從フトナサント欲ス本按ハ其目前モ目前ニアラサルモ同一ニシテ區別ナシ司法省ノ草按ハ其目前ト非目前トノ區別アリテ權衡宜キヲ得タリ又第四百四十二條ヲ追加スルノ理由ハ總テ官吏ノ職務上ノ事ニ付テハ其事實ヲ證明スルノ精神ナリ然ルニ現行讒

謗律ニハ其事實ノ有無ヲ問ハストアリ官吏ハ全國大小ノ至治ニ關係スルモノナリ然レモ其私事ナレハ衆人ト同一視ス可キモ苟モ職務上ノ事ニ於テ事實ニ適當ナレハ其罪ヲ問ハスト爲スハ是レ確乎タル道理ノ存スルモノト信ス若シ概シテ有無ヲ問ハスト云ハ、恐クハ人民ノ口ヲ鉗制スルニ至ラン彼英佛ノ如キモ皆事ノ有無ニ因テ論スト聞ク議者或ハ言ハン警察官ハ人民ニ代ツテ告發ス可シ其權ヲ人民ニ與フルニ及ハスト其然リ豈ニ其然ランヤタトヒ人民ト雖モ官吏ノ果シテ不正ヲ認ムルトキハ直ニ之ヲ論辨ス可ラスト言フノ理アルヲナシ若シ之ヲ抑壓セハ恐ラクハ人民ヲシテ心服セシムル能ハサル可シタトヒ此ノ如クスルモ漫ニ論難スルモノハアラサル可シ若シ之レアリトセハ嚴罰ヲ加フヘク又有實ナラハ其罪ヲ

問ハスシテ可ナラン仍テ第四百四十一條并ニ第四百四十二條ヲ追加セ
 ントスルナリ總テ刑法草案ハ委員ノ數月ヲ閱シテ査定シタルモノ
 ナルニ一朝修正ヲ加ヘハ或ハ恐ル全体ニ關係ヲ生セサルヤト然レ
 氏本官ノ修正追加ハ最モ精神ヲ注キタルモノニシテ刑法ノ全体ニ
 關係アルコナク復タ決シテ不權衡ヲ生スルノ患ナシト信用セリ故
 ニ各位ニ於テ前說既ニ消滅シ唯本條ノミヲ可決セハ不可ナリトス
 ルノ顧慮ヲ須ヒス本條ノミニテモ可決セラル、トキハ獨リ本官ノ
 幸ノミナラス實ニ國家ノ大幸ナリ

○廿七番 楠本 正隆

嚮ニ讒謗律ノ會議ニ當リ官吏職務上ニ付テハ事ノ有
 無ヲ殊ニスルノ議ヲ以テ全會一致之ヲ可決セリ思フニ讒謗律ハ單
 行律ト爲スヲ可トスルノ論アル可シト雖モ彼是ニ關係ヲ有スルヲ

以テ本律ニ入ルヲ可トス仍テ本官ハ二番ノ動議ヲ賛成ス

○廿二番 福羽 美靜

二番ノ動議廿七番ノ賛成說ハ實ニ本官ノ意ヲ得タリ
 本官モ亦彼讒謗律ノ修正委員タリ本條ニ於テ二番ノ說ノ如クスル
 モ肯テ全篇ニ支障アル可ラスト思考ス故ニ之ヲ賛成ス

○議長 二番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十九番 津田 出

本官ハ本按修正ノ委員タルヲ以テ聊其所見ヲ陳述ス
 可シ二番ノ說ニ歐州各國亦然リト云フト雖モ委員ノ此ノ如ク之ヲ
 爲スモ豈ニ亦其理ナカランヤ已ニ二番ノ說ニ官吏ノ職務ハ公事ナ
 リ其事實ノ有無ヲ問ハサルハ不都合ナリ若シ其實アリトセハ固ヨ
 リ言者ヲ罰ス可ラス故ニ之ヲ言ハシメサルハ口ヲ鉗スルナリトノ
 論旨ナリト雖モ是決シテ否ラズ抑現行ノ讒謗律ヲ設定セシハ何ノ

意ナリヤ且官吏ト人民トヲ分別セサルハ何ノ意ナリヤヲ詳カニセ
ハ辨者ヲ埃スシテ自ラ明瞭ナラン然ルニ人民ノ事ハ讒謗ス可カラ
ス官吏ナラハ讒謗スルモ其有無ヲ分ツ可シト言フハ最モ理會シ難
シタトヒ英佛ニ其法アリト雖モ洞アツナ―ド氏其言ヲ發スト雖モ
皆悉ク不可ナリ決シテ區別ヲ立ツ可キモノニアラス假令其區別ヲ
立テサルモ復タ以テ人民ノ口ヲ鉗スルニハアラサルナリ何トナレ
ハ人民ニハ其告訴告發ヲ爲シ得可キ門扉アレハナリ若シ人民ニシ
テ義務ノ關スル所トセハ公然之ヲ告發スルヲ可トス何ソ必スシモ
讒謗主義ヲ以テ之ヲ爲スヲ須ヒンヤ是レ其不可ノ甚シキモノナリ
己ニ論理ノ此ニ歸スルヲ以テ司法省ノ草按ヨリ之ヲ刪リタルナリ
更ニ之ヲ云ハ、人民ハ有無ヲ問ハス官吏ハ之ヲ問フト爲ストキハ

官吏ノ爲メニ公平ヲ示スニアラスシテ乃チ公平ヲ賣ルト云フモノ
ナリ豈ニ品格ノ惡キ法律ナラスヤ

○二番藤齋利行 本官ノ説ハ己ニ滿場諸官ノ耳ニ徹スル上ハ敢テ喋々セ
スト雖モ十九番ハ或ハ其意ヲ充分ニ理會セサルヲ以テ駁撃ヲ與ヘ
タリト思惟ス故ニ其意ヲ再陳シテ更ニ滿場ノ清聽ニ供セントス抑
本官ノ熱心シテ論スル所ノ要領其官吏ト人民トニ異ナルコアルハ
理ノ最モ見易キモノナリ彼官吏職務上ノ事ノ如キハ之ヲ大ニスレ
ハ乃チ全國一般ノ利害ニ關係スルモノニシテ固ヨリ一個人ノ事ト
逕庭アリ之ヲ約スレハ一個人上ト官吏職務上トハ自ラ相異ナル
所アルヲ以テ之ヲ異ニセントスルモノナリ若シ共ニ異ナル所ナシ
ト云ハ、官吏人民ヲ混同視シテ差違ナキナリ己ニ此ノ如シトセハ

本官將タ何ヲカ言ン

○十番

水本
成美

本官ハ本按ニテ可ナリトス何トナレハ法律ノ條款ハ各々其適當正面ノ主義アルモノナリ第二節ハ官吏ノ職務ヲ行フコトヲ妨害スル罪條ニシテ暴行脅迫又ハ歐傷侮辱等ノコトヲ云フ敢テ讒謗ノコトニ及ハス又人民ノ口ヲ鉗スルニアラサルモノハ未發ナレモ彼治罪法第九十六條ニ何人ニ限ラス告訴告發ヲ爲スコトヲ掲ク而シテ其罪ヲ處分スルハ本按即チ刑法ヲ以テスルナリ此ノ如ク兩法相照應スルトキハ決シテ二番ノ如キ憂アルコトナシ況ヤ實ヲ得ルト雖モ云々ト記スルカ如キハ律文ノ体面甚タ不可ナルヲヤ

○外番保村田

原按ヲ主持スル爲メ一應ノ陳述ヲ爲ス可シ二番ハ司法省草按第七十條ヲ挿入追加セントス是レ甚タ不可ナリ若シ之

ヲ追加セハ社會ノ平安ヲ保全スルコト能ハサル可シ何トナレハ一般人民ヲシテ官吏職務上ノ行爲若シ其實アリトセハ何ヲ云フモ可ナリトスルノ感ヲ起サシムルヲ以テナリ抑モ目下人民ノ情態ハ只管官吏ノ行爲ヲ新聞紙等ニ載スルヲ好ミ之ヲ誹議スルヲ喜フノ風アリ故ニ若シ論者ノ如クセハ貴顯官吏ノ行爲ヲ讒謗シタルモノアレハ一々之ヲ裁判ニ付シ其有無ヲ決セサルヲ得サル可ク如此ハ實ニ不可言ノ弊害ヲ生セン夫レ人民ニシテ官吏ノ行爲ニ果シテ惡事アリトセハ之ヲ告訴セシムルノ道アリ固ヨリ之ヲ讒謗スルヲ須ヒサルナリ論者外國ニ於テハ之レ有リト云フト雖モ是レ僅ニ比耳義佛蘭西ノ二國ノミ英吉利ノ如キハ官民共ニ同一ナリ若シ修正ノ如クセハ官吏ト人民ト相異ナル者トナルニ至ル想フニ二國ノ法ノ如キ

或ハ惡法ト云フモ不可ナカル可シ

○三十番鶴田

本官ハ曾テ司法省草按ノ委員タリシカ元來草按ハ全

ク佛國ノ法ニ準據シタルナリ其後審査ヲ經テ删除シタルノ主意ハ十九番十番ノ説ニテ盡セリ其第一主義ハ讒謗ハ惡事ナリト云フヲ以テ主眼トセリ然ルニ又之ヲ言フモ可ナリトセハ其主義ヲ二途ト爲スナリ故ニ不可トス抑古來支那日本ニハ未タ讒謗律ヲ設ケス官吏ニモ人民ニモ總テ之ヲ罪トセス蓋シ人言ヲ容納スルノ意ナル可シト雖モ外國ニテ讒謗律ヲ設ケタルハ全ク警誡ノ主意ヨリ來ルモノナルヲ以テ特ニ官吏ノミ其有無ヲ以テ罪ヲ判別スルハ甚々其主義ニ戻レリ然ルヲ今之ヲ可トスルハ或ハ研究ノ未タ至ラサルモノナラン若シ人ノ上ニ立ツ主治者ニシテ他ノ讒誹ヲ受ケ毎度之ヲ辨

明セサル可ラスト爲スカ如キハ獨リ其煩忙ニ耐ヘサルノミナラス却テ言フ可ラサル弊害ヲ生ス可シ故ニ本按ニテ可ナリ

○議長 本日ハ各位共ニ御陪食ノ命アリ論議ヲ茲ニ止メ參朝セントス散會セヨ

午前第十一時八分開場

元老院會議筆記明治十三年四月二日

○第七十四號 刑法審查 第二讀會 三月三十日ノ續キ

議長 細川潤次郎
代理

出席議員

二番 齋藤 利行

三番 大久保一翁

九番 神田 孝平

十番 水本 成美

十一番 伊集院兼寛

十三番 楠田 英世

十八番 東久世通禧

- 十九番 津田 出
- 二十四番 山口 尙芳
- 二十五番 河田 景與
- 二十七番 楠本 正隆
- 二十八番 安場 保和
- 二十九番 柴原 和
- 三十番 鶴田 皓

内閣委員 番外一番 太政官權大書記官村田保

午前第十時十五分開場

○議長 議長欠席ニ付本官代理ヲ爲シ一昨日ノ續會ヲ開ク

○二番 齋藤利行 前會ニ於テ本條ノ修正說ヲ提出シ嚴シク三十番并ニ内

閣委員ノ駁議ヲ受ケタリ其要ハ讒謗ハ不善ナリ既ニ不善ナラハ官吏人民同一ナルニアラスヤ然ルヲ官吏職務上ノ事ノミ証明ヲ要ストセハ是原則ニ反スト云フニ外ナラス本官ハ答辨シテ亦既ニ之ヲ詳盡セリ然レモ前會欠席セシ議官ノ爲メニ復タ更ニ其要點ヲ述ヘントス抑人民ノ過失ヲ擧ケ之ヲ世間ニ流布セシムルモノノ利益アルナシ唯官吏職務上ノ事タル天下人民ノ痛痒ニ關スルコト大ナリ仍テ歐米ノ法律ニモ之ヲ異ニセリ内閣委員ノ駁議ニ云ク佛ハ本官ノ說ノ如シ英國ハ官吏人民同一ナリト其然リ然リト雖モ英領印度ノ律ハ總テ公益ニ關スルコトハ其罪ヲ問フトアリテ誠ニ詳密ヲ極メタルモノトス然レハ其本國ハ舊來ノ律ニシテ裁判官ノ活用ニ付シ新地方ハ詳密ニ律ヲ設ケタルモノナルヲ知ル可シ夫レ一ノ英國ニシ

テ東西ノ異同アル此ノ如シ見ル可シ新法ハ道理ノ優ナルニ從テ定
 メシコヲ獨リ英國ノミナラス各國ノ律モ亦參照セサル可ラストセ
 シカ聞ク各國學士ノ說ニ誣罔ニアラスシテ實事ヲ云フハ讒謗ニア
 ラスト云フニ傾動セリト蓋シ本官ノ考フル所佛國法律ノ如キハ極
 メテ精密ナルモノナリ既ニ一人一己ノ私事ハ之ヲ證明スルコト許
 ス可シト云ハス是他ナシ人ノ醜行ヲ摘發スルヲ喜フモノハ普通ノ
 人情ナリ若シ漫ニ之ヲ許サハ風俗ヲ壞敗スルニ至ル可キヲ以テナ
 リ故ニ本官ハ彼ヲ舍テ此ヲ取ラハ權衡其平ヲ得ルニ庶幾カラント
 ナシ熱心本說ヲ主持スル所以ナリ

○三十番 鶴田 皓 二番ノ說ハ詳明ニシテ一應理アルカ如シ然ルニ其主
 義ノ支離スル所ハ前會ニオイテ十九番及ヒ內閣委員ノ辨論ニ由テ

亦悉セリ二番ハ既ニ官吏職務上ノ事ノミ証明ヲ許スハ公益アリト
 云ト雖モ元來讒謗ヲ以テ不是ナリト爲ハ徹頭徹尾之ヲ問ハサルヲ
 可トス若シ之ヲ問フトセハ官吏職務上ノ事ノミヲ以テ證明スルコ
 ト許ス可キニアラス惟フニ論者ノ說ノ如クセハ或ハ自ラ法律ヲ破
 ルト云フニ庶幾カラシ且若シ司法省草按ノ如クセハ必ラス裁判所
 ノ處分ヲ要ス可シ然ルニ其處分ヲ爲スニ方リテハ固ヨリ片言以テ
 之ヲ折ム可ラス乃チ其官吏ヲ訟庭ニ招喚セサルヲ得ス如此ハ彼新
 聞紙上ニ掲載セシモノ、如キモ官吏ハ每時對審ヲ受サル可ラサル
 ニ至ラン是特リ煩雜ニ耐ヘ難キノミナラス一般ノ風俗ニ關係ヲ生
 スルハ既ニ再三辨論スルカ如シ且ヤ總テ人民ノ事ナリトモ其有無
 ヲ問ハスト爲スハ人ノ不善ヲ云フヲ禁スルノ理ヨリ成立タルモノ

ナリ然ルヲ官吏ノ一方ノミ否ラストスルハ公平ヲ示スカ如クニシテ却テ私ヲ爲スモノト云フ可シ畢竟官吏ノコヲ云フヲ許スハ直情徑行ニシテ所謂野蠻ノ習ヲ免カレサルモノナリ

○二番齋藤利行 三十番ノ説ヲ分析スレハ若シ証明ヲ許サハ官吏ハ煩雜ニ堪ユ可ラスト云フは一ナリ讒謗ハ不善ナリ既ニ不善ナルコトヲ許スハ自カラ法律ヲ破ルト云フ是二ナリ此二説ヲ掲ケテ本官ノ説ニ抗スト雖モ決シテ當ラス看ヨ佛國ノ如キ官吏ハ縱令他ノ讒謗ヲ受ルモ其説ノ相當セサルトキハ之ヲ駁シテ足レリトシ復タ訟庭對審ヲ要スルノコトナシ且ツ現ニ我新聞紙上ニ讒謗ノコアルヲ見ルモ職務上ニ關スルコトハ甚タ稀ナリ本官記憶スル所僅ニ一ツアリ乃チ或ル地方ニ於テ官吏ノ賄賂ヲ取りタリト云フノ讒謗ヲ爲シ之カ罰ヲ

受ケタルモノアルノミ本官ハ決シテ三十番ノ憂フル如キモノニアラスト信ス又既ニ讒謗ハ不善ナリト爲サハ法律ノ主義ヲ二三ニス可ラストノ説アリ本官固ヨリ之ヲ二三ニセント欲スルニアラス抑讒謗ノ字面ハ從來慣用スル所ニシテ或ハ事ニ由リ穩當セサル所多シ中ニ就テ其實事ヲ擧ケテ論議スルモノヲ取り直ニ之ニ讒謗ノ字面ヲ下スハ最モ允當ナラサルナリ之ヲ要スルニ事ノ有無ヲ問ハス概シテ讒謗ノ字面ヲ下シ讒謗ハ不善ナリト云フハ未タ全ク盡サルモノナル可シ現今ノ人情ヲ察スルニ總テ他ノ聞キ苦シキコトヲ云フヲ好ムノ風習アリ然レモ所謂慣用ノ讒謗中自カラ之ヲ分別セサル可ラサルモノアリ無ヲ有ト云ハ之ヲ誣罔ト云フ可シ有ヲ有ト云フハ素ヨリ妨ケナカル可シ只ダ誣罔ノ不善ナルヲ慎シム可キナリ

此法ノ如キモ亦之ヲ戒ムルニ過サルノミ

○外一番保村田 二番ハ前會ニ於テ其說ノ引証ニ歐米各國皆ナ然リト

云ヲ以テ本員ハ之カ參考ノ爲メ比耳義佛朗西ノ二國ニ在リト辨明
セシハ是レ二番ノ誤リアルヲ以テ意ヲ加ヘシノミ然ルニ二番ハ依
然司法省ノ草按ヲ根據トシテ熱心ニ修正說ヲ主持スト雖モ此ノ如
クセハ原來人民ハ官吏ノコヲ云フヲ好ムノ情態アリテ假令之ニ罰
ヲ加フルモ陸續抗言セント欲スルモノアルニ加フルニ其實アレハ
之ヲ云フモ罰ナシト爲スニ於テハ人言ハ靡然トシテ之ニ傾向スル
ハ必然ノ勢ナリ然ルニ其被害者タル官吏ハ毎ニ訟庭ニ抵リ之ヲ証
明セサル可ラストセハ大臣參議モ同ク對審ノ場ニ臨マサル可ラサ
ルニ至ラン豈ニ不都合ナラスヤ且ツ二番ハ官吏職務上ノコヲ云フ

モノハ實際アルコナシト云ヘモ若シ之ヲ許サハ忽チ抗言ノ黨群起
シ言フ可ラサルノ結果ヲ見ルヤ疑ヒヲ容レサルナリ

○二番齋藤利行 內閣委員ノ駁論ハ本官曩ニ已ニ三十番ニ對シテ辨シタ

ルヲ以テ足レリトシ一々之ヲ答論セス唯內閣委員ハ之ヲ許サハ其
言大臣參議ノ上ニ及フモノ陸續輩出ス可シト云フト雖モ本官ニ於
テハ人ニ不是ノ行爲ヲ摘發セラル、カ如キ大臣參議ハ斷シテ之レ
ナキヲ信ス若シ萬一之レアリトセハ實ニ皇國ノ安寧ヲ保全ス可ラ
サルモノナリ故ニ之ヲ許スト否トニ關セス決シテ其無キヲ以テ信
ヲ置キ亦タ杞憂スルニ及ハストス

○十九番津田出 本條既ニ數回ノ討論ニ涉リ是非自ラ判別スト雖モ三

十番ト內閣委員トノ駁議ハ腴弱ニシテ未タ二番ノ說ヲ屈スルニ足

ラス何トナレハ人民ノ一方ヨリ之ヲ云ハ、大臣參議ノ陸續參庭ス
ルニ至ルモ何ノ不可カ之アラシヤト云フハ當然ニシテ却テ之ヲ欲
スト云フナル可シ本官ノ説ハ然ラス曾テ洞アソナード氏ハ官吏ヲ
讒謗スルニ付テ之ヲ証明セシムルハ公益アリト云シコアリト聞ク
ト雖モ本官ハ一言以テ之ヲ蔽ヒ斷シテ無益ナリトセリ其所以ハ既
ニ讒謗ハ惡事ナリ故ニ之ヲ罪トシ以テ刑法ニ問フナリ若シ之ヲ刑
法ニ問フ可ラスト云ハ、乃チ惡事ニ非サル可シ已ニ惡事ニ非スト
セハ固ヨリ罪トス可ラス乃チ之ヲ刑法ニ問ハスシテ可ナリ然ルニ
讒謗ハ惡事ナリ不善ナリ既ニ之ヲ禁シ且罪スト爲シ而シテ官吏職
務上ニ對シテハ之ヲ言フモ可ナリトスルハ豈ニ自家撞着條理錯亂
セルモノニ非スヤ故ニ之ヲ無益トシ刑法中ニ編入セサルナリ三十

番ト内閣委員ノ説ハ本按ヲ維持スルニ方リ却テ臆弱ナルヲ覺フル
ヲ以テ更ニ一應陳述スルコト此ノ如シ

○二十七番 楠本
正隆

本官ハ二番ノ説ヲ是トセリ其理由ハ前會既ニ陳述

セリ凡ソ人ノ隱惡ヲ云フハ不善ナリト雖モ奈何セン澆季ノ人情ハ
他ノ隱惡ヲ訐イテ以テ快ト爲スノ風習ニ赴クカ故ニ之ヲ制スルニ
法律ヲ以テセサル可ラサルニ至ルモ亦不得止モノニシテ即チ向ニ
讒謗律ヲ設ケラレ且目下其追加按ヲ本院議定ニ付セラレシ所以ナ
リ因テ本官ハ切ニ二番ノ説ノ如ク可決センコトヲ望ム

○外一番 村田
保

讒謗律追加ノ議按ハ既ニ内閣ニ還付ナリタリ各位注

意ノ爲メ一言ヲ陳ス

○十番 水本
成美

本條ニ付テハ衆議既ニ盡キタリト認ム速カニ之ヲ決シ

後條ニ移ル可キヲ欲ス

○十三番 楠田 英世 十番ノ建議ヲ贊成ス

○議長 二番ノ修正説ハ第四百四十一條ヲ修正シ及ヒ司法部草按ノ第百七十條ヲ挿入セントスルノ二個ナリ仍テ議事條例第五條ニ據リ之ヲ分別シテ決議ヲ取ラントス先ツ第四百四十一條ニ付キ二番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者三人

○議長 少數ヲ以テ第四百四十一條ニ修正ハ消滅ス次テ司法部草按第百七十條ヲ本按乃チ第四百四十一條ノ次ニ挿入スルニ番ノ説ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者二人

○議長 少數ヲ以テ二番ノ説ハ消滅ス

○二十四番 山口 尙芳 本按ハ目前ト目前ニ非スト雖モ二個ノ罪ヲ併セ

テ同一ノ罪トセリ然ルニ司法部ノ草按ニハ輕重ノ別アリ甚タ允當ナリトス既ニ目前ト云ヘハ規則ニ依リテ職ヲ執行スルノ所ヲ指ス者ナリ故ニ彼草按ノ如ク之ヲ修正セントス

○議長 前議ニ消滅セシ二番ノ説ハ目前ト非目前トノ權衡ヲ付セントスルナリ而シテ今二十四番ノ説モ亦同一ノ聽ヲ爲セリ果シテ同一ナリヤ將タ差違アリヤ

○二十四番 山口 尙芳 差違アリ例ヘハ裁判官ノ裁判ヲ爲スニ方リ目前ニ於テ之ヲ讒謗スルカ如キハ是レ公席ヲ侵スト裁判官ヲ辱カシムルトノ二犯ナリ目前ニ非スト雖モトハ只其官吏ヲ侮辱スルニ止ルノ

ミ然ラハ之ヲ區別シテ二項ト爲サ、ル可ラス果シテ之ヲ區別セハ其罪モ亦輕重ナカル可ラス仍テ目前ハ二月以上二年以下ノ重禁錮五圓以上五十圓以下ノ罰金ト爲シ其目前ニ非スト雖モハ一月以上一年以下二圓以上三十圓以下ト爲サントス是本官ノ修正說ナリ

○議長 聞クカ如キハ果シテ二番ノ說ト同一ニアラスヤ

○二番 齋藤利行 敢テ問フ二十四番ハ目前ニ非スト雖モ刑ハ二圓以上三十圓以下ト爲サントスルカ司法省ノ草按ニハ三圓以上三十圓以下トアリ

○二十四番 山口尙芳 二番ハ司法省草按ノ第七十條ヲ取テ全ク之ヲ挿入セントノ說ナリ本官ハ該條中ノ字句穩當ナラストスル所アルヲ以テ更ニ修正シ本按ニ加ヘントスルナリ若シ二番同一ノ說ナルト

キハ固ヨリ之ニ左袒ス可シト雖モ其小異アルヲ以テ別ニ一說トシテ提出セルナリ

○議長 二十四番ノ說ハ司法省草案ヲ用ユルニアラスト雖モ其主旨ハ既ニ議場ニ於テ消滅セル者ト認ムルナリ

○二十四番 山口尙芳 既ニ消滅セハ更ニ說ヲ爲サス

○十三番 楠田英世 本條ニ疑アリ第三百五十八條尋常人民ヲ誹毀スル項ニハ目前ト否トノ別ナシ本條ニハ區別アリ如何

○外番 村田保 質問ノ意ヲ察スルニ第三百五十八條ニハ公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ト書類圖画ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誹毀シタル者トシ而シテ本條ニハ目前ト否トニ區別アルヲ以テ其差違如何ト云フ者ノ如シ本條ハ侮辱トアリ第三百五十八

十五

條ハ誹毀トアリテ讒謗ノ原ナリ故ニ彼ハ是ヨリ輕シ官吏ノ職務ナ
レハ之ヲ重シトシ總括シテ瑣細ノコトニ言及ハサルモノト知ル可シ

○十三番楠田英世 内閣委員ノ説明ノ如クナレハ即チ本條ニモ輕重ナカ

ル可ラス然レモ目下修正ノ好字面ヲ得ス若シ同意ノ人アラハ本條

ノミヲ拔出シテ別ニ修正セハ可ナラン願クハ賛成者ヲ得テ問題タ

○ランコヲ本論ニ對シテ 本論ニ對シテ

○議長 十三番ノ説ノ如キハ第三讀會ニ於テ修正説ヲ提出シテ可ナ

ラン第百三十六條ヨリ第百四十一條マテ本條ヲ可トスル者ハ起立

○ス可シ

起立者十人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス時已ニ午ニ近キヲ以テ午餐ノ後

引續キノ會ヲ開ク可シ少時散會セヨ

午前第十一時四十五分閉場

午後第一時五分開場

○議長 午前引續キノ會ヲ開ク

第百四十二條

第百四十三條

第百四十四條

第百四十五條

第百四十六條

第百四十七條

第四百四十八條

第四百四十九條

第四百五十條

第四百五十一條

第四百五十二條

○三十番鶴田 皓 第四百五十一條第四百五十二條ニ修正ヲ加ヘ乃チ兩條ト

モニ其重禁錮ヲ輕禁錮ト爲サントス既ニ第二百二十七條ハ再修正ニ決定セリト雖モ該條ハ國事犯ナリ故ニ再修正ヲ加ヘサルモ支障ナシ本條ハ皆本犯アリテ之レニ連累シタル罪ニシテ乃チ輕罪ナリ今之ヲ輕禁錮ト爲スモ敢テ差支ナシトス而シテ彼第二百二十七條ノ如キハ再修正ヲ須ヒス原按ノ如クシテ可ナラン

○十番水木 成美 贊成

○議長 三十番ノ議贊成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十三番楠田 英世 本官曾テ聞ク輕禁錮ハ專ラ國事犯ニ用ユルノ刑ナリト果シテ然ラハ刑ノ性質區分ニ於テ甚タ錯雜ス可シ

○三十番鶴田 皓 輕禁錮ハ一般ノ輕罪ニモ用ユル刑ニシテ其例數條アリ特ニ國事犯ニ限ルノ刑名ニ非ラス

○十三番楠田 英世 了解セリ然レモ輕ト重トハ反對ナル字意ナリ其法律ニ關係ヲ生スル大ナルハ言ヲ待タス何トナレハ既ニ重ト爲シテ密

查シ又タ俄ニ之ヲ輕ト爲ス甚タ輕忽ノ誹リアルヲ免カレス知ラス果シテ其理由アルヤ否ヤ

○三十番鶴田 皓 凡テ罪人ヲ隱匿スルニ其罪人若シ死罪ヲ犯ス者ノ如

○キハ重トスルモ尙ホ足ラスト雖モ其輕キモノニ至テハ甚タ輕キモノアル可シ故ニ彼此酌量シテ重ト爲シタルナリ然ルニ國事犯ノ章已ニ之ヲ輕トセシヲ以テ一旦ハ輕ト爲シタレモ内外ノ國亂ニ關スル罪モアレハ復タ之ヲ重ト爲セリ然レモ其輕重ヲ細別セントセハ一々事項ヲ掲ケサレハ盡サ、ルニ至ル可シ故ニ之ヲ總束シテ重キヲ以テ主トシ目下ハ前ニ云フ所ノ理ニ因テ輕キヲ以テ主ト爲スナリ其實際ニ於テハ輕禁錮ヲ以テスルモ或ハ其重キニ過クルモ圖ル可ラサラン

○二十四番 山口 尙勞 元來重ト定ムルニハ多少ノ講究ヲ費ヤセシナル可シ今俄ニ之ヲ輕トスルハ甚タ解シカタシ内亂ノ章ニハ二年以上五年以下ノ輕禁錮トアリ本條ハ十一日以上一年以下トアリテ其差違

灼然タリ原按ヲ可トシ別ニ修正ヲ要セス

○十三番 補田 英世 第一百五十一條ハ重禁錮ヲ適當ト爲ス之ヲ國事犯ノ權衡ニ取ラハ重キ者ハ甚タ重ク輕キモノハ甚タ輕シ故ニ今第二百二十七條ニ牽連スルヲ須ヒス本條ハ原按ノ如クシテ可ナリ

○三十番 鶴田 皓 二十四番ト十三番ノ說ハ同議ナリ更ニ精密ニ云ハ、輕ト爲スモ重キニ過キ重ト爲スモ猶ホ輕キモノアル可シ仍テ折中シテ輕ト爲スヲ欲スルナリ元來隱匿ノ罪ハ集會所ヲ給與スルノ罪トハ同一視ス可ラス給與スルノ罪ハ事前ノ從ト云フ可ク隱匿ノ罪ハ事後ノ從ト云フ可クシテ正面ノ從犯トハ同一ニ論ス可ラサルカ如シ本刑法ハ從犯者ハ一等ヲ減スルノ例ナリ仍テ正犯死ナレハ從犯ハ死ニ一等ヲ減ス隱匿ハ事後ノ從トモ云フ可シト雖モ決シテ正

犯ニ連接シタルモノニアラス畢竟人ヲ隱匿セシムルモノハ惻隱ノ情ヨリ生シ人情アル犯罪ナリ故ニ一等ヲ減スルノ從ト區別シ猶輕カラシムコトヲ欲スルノミ然ルニ重ト定メテ動ス可ラストノ説ハ最モ允當ナラサルナリ但重禁錮ニハ十一日以上等ノ刑ハ他ニアルコトナシト云ハ實ニ説ク所ノ如シ

○議長第五百一十一條第五百十二條ヲ修正スルハ明瞭ナリ如是ハ第二百二十七條ト連帶シテ決ヲ取ラサル可ラサルニ似タリ然ルニ第二百二十七條ハ已ニ委員ノ再修正ニ付セリ若シ本條ヲ修正ニ決セハ委員ノ調査ハ消滅ス可キナリ三十番ニ於テ別ニ説アリヤ

○三十番 鶴田 皓 然リ本按修正ニ決セハ第二百二十七條ノ修正委員ヲ解テ可ナリ

○二十四番 山口 尙芳 原按ハ下附ノ按ト修正按トアリ何レヲ以テ爲ルカ
○三十番 鶴田 皓 本官ノ原ク所ハ委員ノ報告セシ修正按ニシテ既ニ本按トナルモノナリ

○二番 齋藤 利行 特殊ノ建言ヲ爲サントス第二百二十七條ハ已ニ前會ノ議決ヲ以テ再修正ノ爲メ委員ニ付托セラレタルモノナリ三十番ノ説ニ由レハ其再付托ノ按モ共ニ決議セントノ意ナルカ如シ然ルニ其委員ニシテ本場ニ欠席スルモノアリ仍テ本官ハ前會ノ決議ヲ重シ本按乃チ第五百一十一條及ヒ二條トモ併セテ之ヲ再修正ニ付シ其報告ヲ待テ後同時ニ決議スルヲ妥當ナラントスルナリ

○二十四番 山口 尙芳 二番ニ賛成ス從來修正委員中ノ一名ヨリ説ヲ爲シ已ニ付托セシ修正ノ決議ヲ取捨スルノ例規アルコトナシ三十番ノ陳

述ハ規則ニ背戻セリ帝ニ背戻スルノミナラス俄然重ヲ輕ト爲スカ
如キハ其關係實ニ鮮少ナラス本官ハ斷シテ之ニ同意セサルナリ

○十九番 津田

出

三十番ノ修正說決議ニ方リ二番特別ノ建議ヲ爲シ二

十四番之ヲ賛成シ且更ニ三十番ノ陳述ヲ反則ナリト云ト雖モ本官
ハ斯クハ認メサルナリ第二百二十七條修正ノ委員五名中三名ハ己ニ
出席セリ三十番モ亦其一人ナリ第二百二十七條ノ報告ヲ爲サル者
ハ殊ニ第五百十一二條ニ修正ノ說ヲ蓄フルヲ以テナリ本官モ亦委
員ノ一名ナリ故ニ更ニ三十番ノ說ヲ賛成シ併セテ其陳述ノ足ラサ
ルヲ補フ

○二番 齋藤

利行

十九番ノ說明瞭ナリ然ラハ三十番ノ陳述スル所ハ之ヲ

筆ニ寫サ、ルモ只修正委員ノ報告ト認テ可ナラン殊ニ委員中二人

ノ欠席アルモ己ニ三人ハ席ニアレハ乃チ多數ニシテ此辨明モ亦允
當トス故ニ前ニ本官ノ建言スル所ハ更ニ取消サレンコトヲ請フ但シ
前ニ建言セシモノハ如是付托委員ノ協議アルヲ知ラサルカ故ナリ
○議長 二十四番ニ問フ二番ハ其建言ノ取消ヲ乞ヘリ二十四番ハ如
何

○二十四番 山口

尙芳

二番ノ說アリト雖モ本官ハ之ヲ了セス何トナレハ

一旦議場ノ決議ヲ以テ再付托トナリタル上ハ成規ニ隨ハサル可ラ
ス然ルヲ例外ヲ以テ議場ニ口頭ノ報告ヲ爲スカ如キハ猶欠席委員
ノ意向モ料ル可ラス且第五百十二條ニ於テハ別ニ所見アルモ未ダ
知ル可ラス故ニ本官ハ不同意ヲ表スルナリ仍テ第五百十一二條モ
共ニ再修正ニ付シ報告ヲ得テ後議決ス可キモノトス

○議長 第五十一二條ヲ更ニ第二百二十七條修正ノ委員ニ付托セン
トスル二十四番ノ説ヲ可トスルモノハ起立ス可シ
起立者七人

○議長 半數ナルヲ以テ成規ニ因リ議長之ヲ決ス可シ議長ハ三十番
ノ修正説及陳述ノ如クスルヲ可トス故ニ第二百二十七條ト併テ可ト
スル者ハ起立ス可シ
起立者七人

○議長 半數ナルヲ以テ議長ハ三十番ノ修正説ニ可決シ次ニ移ル可シ
第二百五十三條
第四節
第二百五十四條

○第二百五十五條

○第二百五十六條

○第五節

○第二百五十七條

○第二百五十八條

○第二百五十九條

○第六十條

○第六十一條

○第六節

○第六十二條

○九番神田孝平 第六十二條第六十四條ノ文體同一ナルヲ可トス故

ニ之ニ修正ヲ加ヘ第六十二條ハ往來ヲ妨害セン爲メ道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シタル者ハ云々ト爲シ第六十四條ハ電信ヲ不通ニ致ス爲云々ニ作ラントス是第六十五條第六十六條等ノ文例ニ倣フナリ

○二番齋藤利行

九番ヲ賛成ス其字句ノ如何ハ肯テ問ハス其精神ハ嘉尚ス可キモノタリ元來原按ノ如ク故意ヲ以テノ五字ヲ存スルトキハ過誤ニ出ルモノハ例外トスルモ既ニ之ヲ刪除セシ上ハ即チ往來ヲ妨害スルノ意ヲ以テセシ精神タラシメサルヲ得サレハナリ

○議長 九番ノ説賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○二十九番柴原和 敢テ問フ本條修正ノ文字ハ如何スルヤ

○九番神田孝平 第六十二條ハ往來ヲ妨害セン爲メ道路橋梁河溝港埠

ヲ損壞シタル者以下原文ノ如ク爲シ第六十四條ハ電氣ヲ不通ニ致ス爲メ電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シタル者以下原文ノ如クセント欲スルナリ

○外村田保 一番

九番ノ説ニ對シ其旨意ノ異同ヲ辨明ス可シ抑損壞ト

云フモ細大一ナラス例ヘハ道路ニ僅ニ穴ヲ穿ツモ損壞ナリ本條ハ如是些々タル穴ヲ穿ツモ往來ヲ妨害スルニ足ラサル者ハ之ヲ罪スト云ニアラス第六十四條ノ電信ノ如キモ亦タ前ニ同シ假令其目的ハ不通ニ致スヲ欲スルモ小刀ヲ以テ僅ニ柱木ヲ傷スル如キ者ヲ罪スルニアラス然ルニ第六十五條六條ノ例ニ倣フト云フモ該條ノ如キハ其目的ヲ達セハ大ナル妨害トナリテ終ニ第六十八條ノ如ク人命ニ關スル危害ヲ生スルニ至ラン固ヨリ此ノ如キ重大ナル

モノニ比例ス可ラサルヤ明ナリ

○二十九番柴原和九番ノ精神ニハ左袒スルモ其字句ハ未タ意ニ慚ハ

サル所アリ故ニ本按ヲ再ヒ委員ニ付托シテ允當ノ字句ニ修正セハ可ナラン

○十番水本成美内閣委員ノ説明ノ如ク第六十二條及ヒ第六十四條

ノ法理ハ固ヨリ第六十五條并ニ第六十六條ノ比例ニアラス今其道路ニ穴ヲ穿ツモノアルモ往來ヲ妨害スルニ至ラサレハ之ヲ刑セサルナリ若シ九番ノ修正ノ如クナレハ假令往來ヲ妨害セサルモ僅ニ之ヲ損壞セハ直ニ刑ニ處セサル可ラサルニ至ラン是特リ苛酷ト謂ヘキノミナラス大ニ法理ニ反スルナリ二十九番ハ亦本條ヲ以テ更ニ委員ニ付シ修正セントノ説アリト雖モ之ヲ委員ニ付シテ將

タ何ノ修正ヲ需ルヤ如此明々白々タル法文ニ修正ヲ加フル如キハ素ヨリ本官等ノ爲スヲ得サル所ナリ

○議長 先ツ第六十二條ヨリ逐次之ヲ決セントス第六十二條九番ノ修正説ヲ可トスルモノハ起立ス可シ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ九番ノ説ハ消滅ス次ニ移ル可シ

第六十三條

第六十四條

○議長 本條九番ノ修正説ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者二人

○議長 少數ナルヲ以テ九番ノ説ハ消滅ス次ニ移ル可シ

○ 第六十五條

第六十六條

第六十七條

第六十八條

第六十九條

第七十條

第七節

第七十一條

第七十二條

第七十三條

第八節

第七十四條

第七十五條

第七十六條

○ 議長 第六十五條ヨリ第七十六條マテ本按ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者十三人

○ 議長 多數ナルヲ以テ本按ニ決シ次ニ移ル可シ

第九節

第七十七條

第七十八條

第七十九條

第一百八十條

第一百八十一條

第四章

第一節

○第一百八十二條

第一百八十三條

第一百八十四條

○第一百八十五條

第一百八十六條

第一百八十七條

第一百八十八條

第一百八十九條

第一百九十條

第一百九十一條

第一百九十二條

第一百九十三條

第二節

第一百九十四條

第一百九十五條

第一百九十六條

第一百九十七條

第一百九十八條

第百九十九條

第二百條

第二百一條

第二百條 第三節

第二百二條

第二百三條

第二百四條

第二百五條

第二百六條

第二百七條

第二百八條 第四節

第二百八條

第二百九條

第二百十條

第二百十一條

第二百十二條

第五節

第二百十三條

第二百十四條

第二百十五條

第二百十六條

第二百十七條

第六節

第二百十八條

第二百十九條

第二百二十條

第二百二十一條

第二百二十二條

第二百二十三條

第二百二十四條

第二百二十五條

第二百二十六條

第七節

第二百二十七條

第二百二十八條

第二百二十九條

第二百三十條

第八節

第二百三十一條

第二百三十二條

第九節

第二百三十三條

第二百三十四條

第二百三十五條

第二百三十六條

○議長 第七十七條ヨリ第二百三十六條マテ本按ヲ可トスル者ハ
起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ次ニ移ル可シ

第五章

第一節

第二百三十七條

第二百三十八條

第二百三十九條

第二百四十條

第二百四十一條

第二百四十二條

第二節

第二百四十三條

第二百四十四條

第二百四十五條

第三節

第二百四十六條

第二百四十七條

第二百四十八條

第二百四十九條

第四節

第二百五十條

第二百五十一條

第二百五十二條

第五節

第二百五十三條

第二百五十四條

第二百五十五條

第六節

第二百五十六條

第二百五十七條

第六章

第二百五十八條

第二百五十九條

第二百六十條

第二百六十一條

第二百六十二條

第二百六十三條

第七章

第二百六十四條

第二百六十五條

第二百六十六條

第八章

第二百六十七條

第二百六十八條

第二百六十九條

第二百七十條

第二百七十一條

第二百七十二條

第九章

第一節

第二百七十三條

第二百七十四條

第二百七十五條

第二節

第二百七十六條

第二百七十七條

第二百七十八條

第二百七十九條

第二百八十條

第二百八十一條

第二百八十二條

第二百八十三條

第二百八十四條

第二百八十五條

第二百八十六條

第二百八十七條

第二百八十八條

第三節

第二百八十九條

第二百九十條

第二百九十一條

○議長 第二百三十七條ヨリ第二百九十一條マテ本按ヲ可トスル者
ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本按ニ決シ次ニ移ル可シ

第三編

第一章

第一節

第二百九十二條

第二百九十三條

第二百九十四條

第二百九十五條

第二百九十六條

第二百九十七條

第二百九十八條

第二節

第二百九十九條

第三百條

第三百一條

第三百二條

第三百三條

第三百四條

第三百五條

第三百六條

第三百七條

第三百八條

第三節

第三百九條

第三百十條

第三百十一條

第三百十二條

第三百十三條

第三百十四條

第三百十五條

第三百十六條

第四節

第三百十七條

○十三番 補田英世 本條ニ疑點アリ過誤失錯ヲ以テ人ヲ殺傷セシ罪犯モ亦自ラ輕重ノ區別ナカル可ラス然ルニ本條ハ規則習慣ヲ遵守セサル過失ヨリ人ヲ死ニ致スモノニ禁錮ノ刑ヲ删除シ單ニ罰金ノミト爲セシハ何ノ原則ニ依準セシヤ請フ詳明アラントヲ

○三十番 鶴田皓 是他ナシ有心ト疎虞トヲ以テ過失ト否トヲ區別スルニ過キス其規則ヲ遵守セスシテ故意ヲ以テ爲シタルトキハ之ヲ過失ト謂フ可ラス本條ハ單ニ懈怠ヨリ生スル所謂ル過誤ノミヲ指スナリ例ヘハ失火等ノ如キ自己ノ過失ヲ以テ家屋ヲ蕩盡シタル者ヲ罰スルハ憫然ナルモ是レ自ラ法規ノ在ルアリテ之レヲ罰セサルヲ得スト雖モ其故意ノ放火トハ判然迥別アルト一般ナリ故ニ本條ハ其本刑ヲ科セス其他モ亦此類例多シ蓋シ皆ナ其眞ニ過失ヨリ生ス

ルヲ以テナリ更ニ又原由アリ過失ノ罪ハ何人ニ生スルヤ測知ス可ラスト雖モ有心故造ノ罪ハ中人以上ハ之ヲ犯サ、ルモノト假定スルモ可ナランカ若シ之ニ本刑ヲ設クルトキハ喩ヘハ其人官員ナレハ直ニ其職ヲ免セラル、ニ至ル可シ自己ノ家屋ヲ燒失シタル爲ニ其官ヲ免セラル、ニ至ルハ豈ニ不可ナラスヤ餘ハ推知ス可キノミ

○十三番 補田英世 其論旨ハ既ニ之ヲ詳知ス然レモ茲ニ八人乗ノ馬車アリ之ニ十人餘ヲ乗スルトキハ馬倒レ車破ル、トアラン然ルニ車主ハ其車ノ破ル、モ又馬ノ倒ル、モ豫テ量知スル所ナレハ固ヨリ之ヲ疎虞懈怠ト云フ可ラス其他規則慣習ヲ遵守セスシテ之ニ類スルモノ少カラサル可シ如此ハ之ニ輕キ實刑ヲ科スルモ肯テ不可ナシトス

○九番 神田孝平 賛成

○議長 十三番ノ動議ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○九番 神田 孝平 規則ヲ遵守セスト云フノ意ハ十三番ノ解説ノ如シ然レモ

遵守セスノ字ハ稍重キニ過クルニ似タリ或ハ規則ヲ知ラサルモノアルモ料ル可ラス故ニ之ヲ熟セス若クハ諳ンセスニ作ラハ妥當ナラン

○十三番 楠田 英世 過失殺傷ニハ二ツノ原由アリ疎虞ナルモノハ輕クシ

テ禍ヲ生ス可キ起原ヲ知ルアルモ尙ホ其備ヲ爲サ、ル者ハ重シトス又九番ノ説ニ知ラスシテ爲スノ説アレモ本按ハ知ラスシテ爲ス者ノミニアラス

○三十番 鶴田 皓 過失殺傷ニ二種アリトノ説ハ理アリ然レモ本條ノ過

失殺傷ハ清律ニ言フ所トハ其幅員廣ク且ツ異ナル所アリ抑モ過失ト云ハ耳目思慮ノ及ハサル所ト解シ罪ヲ免カル、モノアリ本條ノ

正面ハ懈怠ナリ又規則ヲ遵守セサルニハ有心アリ懈怠アリ原ヨリ

一點殺傷スルノ意ナキモ其規則ヲ守ラサルノ意ハ免カル可ラス故

ニ本條ノ罰ヲ受クルモノタリ喩ヘハ遊獵免許場所ニ於テ傍人ニ傷

ケタルトキハ其漫ニ來リシ人却テ惡シ、トス又射的場ノ如キ人ノ

來ル可ラサル所ニシテ人ヲ殺傷スルハ過失殺傷ニ入ル可ラス又馬

車ノ比喩アリ其馬車店ノ規則ヲ守ラサル者ハ本條ノ如ク之ヲ罰ス

ルナリ

○十番 水本 成美 十三番ハ馬車ノ比喩ヲ以テ本條ニ實刑ヲ設ケント欲ス

ト云フト雖モ修正委員ノ實刑ヲ刪リタル主意ハ十三番ノ説ノ如キ

モノニ非ス十三番ノ説ノ如キハ第三百八條ニ入ル可キモノニシテ

本條ニ關係ナシ況ンヤ本刑法ハ過失ニハ總テ本刑ヲ科セサルノ大

體ナルニ於テヲヤ

○二十四番山口 十三番ヲ賛成ス司法省ノ草案ハ至レリ盡セリ規則

慣習ヲ遵守セスノ字句則チ本案ノ主眼ナリ例ヘハ遊獵者ノ其距離

○人家ニ近キヲ以テ禁セラレタル場所ニ於テ之ヲ爲シ人ヲ殺傷スル

カ如キヲ云フナリ現ニ佛國人カ日本人ヲ殺シタルコトアリ是過失ナ

リ然レモ其爲ス可ラサル場所ニ於テ爲シタル故本刑ヲ科セラレタ

リ大抵法律ハ今日ヲ目的ト爲シテ設立スルハ美ト爲サス其百般ノ

事爲遠ク將來ニ量リテ以テ設立ス可キモノナリ然ルヲ一己ノ意見

ニ問ヒ之ヲ用捨スルハ閱歷ノ未タ足ラサルモノト云フ可シ

○十三番補田 英世 或ル議官ハ第三百八條ヲ引テ本案ニ論及スト雖モ其

精神恐クハ差違アラン該條ハ毆打ナリ本條ハ規則ヲ遵守セサルニ

原因スルノ過失ナリ

○十九番津田 出 因テ死ニ致ス云々トアルヲ以テ司法省ノ草案ノ如ク

スルヲ可トスルノ説アリ蓋シ人ヲ死ニ致スハ固ヨリ重大ノ事項ナ

リト雖モ其原因ハ過失ナリ若シ故意ニ出ルモノナルトキハ其禍ヲ

被ル者モ亦或ハ避ケ難カル可シ然レモ過失ハ原是禍ヲ加フルノ意

ナクシテ誤テ加ヘタルモノナレハ被害者首ニ此ニ注意セサル可ラ

ス此邊ヲ考察スレハ再ヒ前案ヲ加フルコトナカル可シ

○二十四番山口 尙芳 十九番ノ説ヲ了セリ然ルニ規則慣習ヲ遵奉セス若

シ誤テ人ヲ殺セシトキハ如何ソヤ其禍ヲ受ケシ者ハ素是禍ヲ受ク

可キ場合ナラサルヲ以テ警虞ナキハ當然ナリ然ルニ害者ハ百萬ノ

富ヲ保チ被害者ハ貧人ナルモ其罰金ヲ出スニ及ハストセハ被害者

タル遺族ノ愁傷如何ソヤ遊臘等ニ於テ此類往々アリ罰金ノ如キモ亦宜ク酌量ヲ加フ可シ抑人ノ恃テ以テ依ル所ノ者ハ法律ナリ之カ警誠ノ爲メ本條ニ本刑ヲ設クルハ眞ニ法律ノ主腦ナリ然ラサレハ懈怠ヲ誠ムルニ足ラス

○三十番 鶴田 皓

二十四番ハ本刑ヲ設ケサレハ被害人ノ心ヲ慰ムル能ハス又懈怠ヲ警誠スルニ足ラスト云フト雖モ元來過失ハ有心ノ罪ト大ニ逕庭アリ故ニ事アルヤ直ニ後悔措ク能ハサルモ有心ナルモノハ然ラス反テ之ヲ愉快ト爲ス可シ刑罰ハ其理情ニ應スルモノナリ過失ノ如キハ重ク罰セサルモ再ヒ其過チナカラン爲メニ之ニ注意セシメテ足レリ且又刑罰ハ公法ヲ以テ科スル者ナレハ其殺傷ヲ受ケタル者ノ私益ハ決シテアルコトナク反テ其人ノ爲メヲ云ヘハ實

刑ニ換フルニ埋葬料ヲ與フルヲ可トスルナル可シ然レハ罰金ハ政府ニ收入スル者ナリ其損害ノ償金ヲ請求スルハ之ヲ民法ニ定ム可キモノトス然レハ則本條ニ罰ヲ重クスルモ將タ何ノ益カ之アラン現行ノ法律ニハ其罰金埋葬金ヲ支與スルコトアルモ本刑法組成ノ大體ハ總テ罰金ハ政府ニ納メ而シテ其償金ノ請求ハ民法上ニ委セリ故ニ本刑ヲ本條ニ設ケントスルハ然ル可ラサルナリ

○二十四番 山口 尙芳

政府ニ納ル罰金ナレハ被害者ニ於テ何ノ用モ爲サスト云ヘハ原按ニ十圓百圓トアルヲ更ニ本按ニハ二十圓二百圓ト増加セシハ何ノ意ソヤ害者富家ナレハ何程科セラル、モ差支ナカル可シ又被害者貧者ナレハ却テ償金ヲ望ムナル可シ唯政府ニ納ルモノトセハ必シモ増加スルヲ要セス或ハ五十圓ト爲スモ可ナリ故

ニ本官ハ熱心シテ本按ニ不同意ヲ表スハ正十回ニ達スルモ

○十三番楠田英世 過失ハ故意ニアラス深ク咎ムルニ足ラスト云フト雖

モ其原由ニ二ツアリ其禍ヲ生ス可キ原由ナキモノト其原由アルモ
ノトヲ區分セサル可ラス已ニ之ヲ區分セハ其刑モ亦分別ナカル可

ラサルナリ到底之ヲ分別セサルハ不可ナリ

○議長 十三番ノ説ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

起立者六人

○議長 少數ナルヲ以テ十三番ノ説ハ消滅ス

第三百十八條

第三百十九條

第五節

第三百二十條

第三百二十一條

第六節

第三百二十二條

第三百二十三條

第三百二十四條

第三百二十五條

第七節

第三百二十六條

第三百二十七條

第三百二十八條

第三百二十九條

第八節

第三百三十條

第三百三十一條

第三百三十二條

第三百三十三條

第三百三十四條

第三百三十五條

第九節

第三百三十六條

第三百三十七條

第三百三十八條

第三百三十九條

第三百四十條

第十節

第三百四十一條

第三百四十二條

第三百四十三條

第三百四十四條

第三百四十五條

第十一節

第三百四十六條

第三百四十七條

第三百四十八條

第三百四十九條

第三百五十條

第三百五十一條

第三百五十二條

第三百五十三條

○二十九番柴原和 第三百十一條ニ本夫其妻ノ下ニ及。妾ノ二字ヲ加ヘ
 ントス本修正ハ第一百四十四條親屬例ニ於テ提出ス可キニ當日欠席セ
 シヲ以テ止ムヲ得ス本條ニ其端緒ヲ發シ親屬例ハ第三讀會ニ於テ
 之ヲ論セントス抑々法律ノ如何ハ國家ノ安寧ニ關ス本條ノ如キハ

安寧ヲ攪亂スルノ法律ト謂フモ可ナリ何トナレハ我皇統ノ天壤ト
 極リテク綿々繼承スル所ノモノハ妾ノアルヲ以テナラスヤ若シ之
 ヲ廢スルトキハ皇統ノ關係極テ大ナリ是レ既ニ邦俗既久ノ慣習タ
 ルヲ以テ現ニ華族ニシテ妾ナキハ恐ラクハ一人モ之ナカル可シ士
 族平民モ亦富裕ノモノハ之ヲ蓄フルモノ舉テ算フ可ラス此ノ如キ
 數百年來ノ風俗ヲ顧ミス一朝之ヲ破ラントスルハ實ニ忍ヒサルモ
 ノナリ蓋シ本按ノ立旨タル乃チ歐州ノ風俗ニ原ク所ナル可シト雖
 モ彼我風俗ノ相同シカラサルハ特リ是ノミナラス若シ夫レ一ニ彼
 ニ仿ヒ遽カニ風俗ヲ變セントセハ忽チ國家ノ安寧ヲ害スルニ至ラ
 ン故ニ本官ハ本按ニ妾ノ字面ヲ掲ケ以テ千古ノ風俗ヲ留メントス
 ○二番藤利行 贊成一夫一婦ト定ム可キ法律ナキ間ハ本按ニ妾ノ字面

○ヲ掲クルヲ可トス夫一説ニ云ハル所ニ據ルニ本典ニ於テ宗廟ノ
 ○議長ニ二十九番ノ説ニ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス
 ○外番一保番村田ニ二十九番ノ説ノ問題トナリシハ驚クニ堪タリ二十九
 番ハ主トシテ君主ノ事ヲ説クト雖モ典侍ノ如キハ所謂妾ニアラス
 之ヲ無用ノ説ト云フノミ又新律綱領ニ掲クル妾ナルモノハ將タ何
 者ナリト爲ルヤ宜ク之ヲ論究シテ後説ヲ爲ス可シ二十九番ハ目今
 妾ヲ蓄フル者擧ケテ數フルニ勝ヘスト云ト雖モ法律ヲ以テ認ム可
 キモノハ果シテ幾許ト爲スヤ實ニ僅々タルヲ信ス抑モ法律ヲ以テ
 認ム可キ妾ハ自ラ聘娶ノ式ヲ以テ納ル、モノニシテ乃チ親屬ニ列
 ス今二十九番ノ所謂ル妾ト指スモノハ概ネ賤婢ナリ固ヨリ親屬ニ
 アラス然ルニ此類モ亦蓄フ能ハスヤト云フニ決シテ否ラス如此曖

昧的ノモノハ法律ヲ以テ認メスト云ニ止マルノミ蓋シ本刑法審査
 ノ時ニ方リ已ニ妾ノ論アリ太政大臣ノ旨ヲ請ヒタルニ本刑法ニハ
 之ヲ掲ク可ラス然レトモ妾ヲ納ル、ニハ差支ナシトノ指令アリ故
 ニ既ニ本刑法ヲ布カル、ニ至ラハ從前入籍セシ妾ノ如キハ別法ヲ
 設ケテ以テ之ヲ待サル可ラス是又其旨ヲ請ヒタルナリ二十九番ノ
 妾ト指スモノ、如キハ何許之ヲ蓄フモ敢テ妨ケナシ唯從前ノ如ク
 公認セサルノミ若シ夫レ二十九番ノ言ノ如クセハ典侍ハ乃チ皇族
 ニ編入セサル可ラサルニ至ラン然ラサレハ其權衡ヲ失スルナリ二
 十九番ハ妾ヲ解スル恐ラク誤リアランカ
 ○二十九番和柴原 内閣委員ハ本官ハ妾ノ義理ヲ知ラスト云ト雖モ肯
 テ知ラサルニアラス又已ニ典侍ハ皇族ニアラスト云ヒ又以後妾ヲ

納ルモ妨ナシト云ト雖モ其歸決スル所之ヲ等親ト爲スコヲ得サル
ノミト云フノミ此ノ如クンハ妾ノ姦通ヲ防クニ何ヲ以テセントス
ルヤ是現律ニ掲ケテ公認セサル可ラサル所以ナリ藉令太政大臣ノ
旨ヲ請フト云フモ本官ハ之ヲ恐レサルナリ若シ其誤リアリトセハ
直諫之ヲ改ムルニ何ノ憚ル所アラン故ニ第三讀會ヲ待テ之ヲ詳論
セントス

○二番齋藤利行 本官已ニ二十九番ノ修正說ヲ賛成セシニ二十九番ハ本
會ニ於テ細論セス第三讀會ヲ待ント云フ本官内閣委員ノ辨明ヲ聽
キ大ニ感觸スル所アリ故ニ第三讀會ニ至ルマテニ思考ヲ盡シ若シ
其好案ヲ得ハ之ヲ提出ス可シ或ハ其說ヲ得サルトキハ正ニ本按ニ
從ハントス既ニ二十九番ハ本會ニ論セスト云フヲ以テ本官モ亦其

賛成ヲ取消サンコヲ乞フ

○議長 二十九番ハ本會ニ所見ヲ提出セサルヤ

○二十九番柴原和 此事ニ附テハ頗ル熱心スト雖モ更ニ第三讀會ニ於
テ總則ヨリノ修正ヲ提出ス可シ

○議長 然ラハ決ヲ取ラサルナリ

第十二節

第三百五十五條

第三百五十六條

第三百五十七條

第三百五十八條

○二番齋藤利行 本官ハ誹毀ノ罪ニ關スル部分ハ已ニ讒謗律ニ比照シ屢

○々之ヲ討論シタルモ終ニ悉ク消滅セリ然レモ熱心猶未タ止マス且
 讒謗律追加ノ按ハ既ニ内閣ヘ引戻サレタリト云モ現行讒謗律ハ依
 然トシテ猶存セリ今本條ヲ以テ現行律ニ比準セハ相抵觸スル所ア
 リ故ニ之ヲ一方ニ歸着セシメントス或ハ言シ誹毀ノ條ハ本按ニ據
 リ若シ尙ホ不足アラハ單行律ヲ以テ補フテ可ナリト然レモ本官ハ
 專ラ一ニ本條ヲ用ヒ現行單行律ヲ廢スルヲ可トスルナリ仍テ第三
 百五十八條及ヒ九條并六十條及ヒ六十一條ノ四條ハ總テ削除シ單
 行律ノ文ヲ以テ其間ニ插入セントス蓋シ其精神ノ差違アルヲ以テ
 前會既ニ採用セラレス其採用セラレサルモノヲ以テ更ニ本場ニ提
 出スルハ即チ贅疣ニ似タリ且前會既ニ採用ナキ說ヲ以テ本條以下
 ノミニ之ヲ加フルハ抑々不可ナリトノ說アル可シト雖モ本官ハ本

條ヲ別題ト見ルヲ以テ之ヲ加フルモ肯テ不都合ナカル可シト信ス
 故ニ前陳ノ如ク此四條ヲ削リ單行讒謗律ノ全文ヲ以テ之ニ挿入セ
 ントスルナリ

○議長 二番ノ動議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

第三百五十九條

第三百六十條

第三百六十一條

第十三節

第三百六十二條

第三百六十三條

第三百六十四條

第三百六十五條

第二章

第一節

第三百六十六條

第三百六十七條

第三百六十八條

第三百六十九條

第三百七十條

第三百七十一條

第三百七十二條

第三百七十三條

第三百七十四條

第三百七十五條

第三百七十六條

第三百七十七條

第二節

第三百七十八條

第三百七十九條

第三百八十條

第三百八十一條

第三百八十二條

第三百八十三條

第三百八十四條

第三節

第三百八十五條

第三百八十六條

第三百八十七條

第四節

第三百八十八條

第三百八十九條

第五節

第三百九十條

第三百九十一條

第三百九十二條

第三百九十三條

第三百九十四條

第三百九十五條

第三百九十六條

第三百九十七條

第三百九十八條

第六節

第三百九十九條

第四百條

第四百一條

第七節

第四百二條

第四百三條

第四百四條

第四百五條

第四百六條

第四百七條

第四百八條

第四百九條

第四百十條

第八節

第四百十一條

第四百十二條

第四百十三條

第四百十四條

第九節

第四百十五條

第四百十六條

第十節

第四百十七條

第四百十八條

第四百十九條

第四百二十條

第四百二十一條

第四百二十二條

第四百二十三條

第四百二十四條

○議長 第二百九十二條ヨリ第四百二十四條ニ至ルマテ本案ヲ可トスルモノハ起立ス可シ

起立者十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ次ニ移ル可シ

第四編

第四百二十五條

第四百二十六條

第四百二十七條

第四百二十八條

第四百二十九條

第四百三十條

○議長 第四百二十五條ヨリ第四百三十條ニ至ルマテ本案ヲ可トスル者ハ起立ス可シ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ即チ第二讀會ハ此ニ畢ル第三讀會ハ追テ報告ス可シ散會セヨ

午後第四時十分閉場

元老院會議筆記明治十三年四月六日
○第三百七十四號議案 刑法審查 第三讀會
議長 山口尙芳
代理

元老院會議筆記明治十三年四月六日

○第三百七十四號議案 刑法審查 第三讀會

議長 山口尙芳
代理

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 二番 | 齋藤 利行 |
| 三番 | 大久保一翁 |
| 四番 | 津田 眞道 |
| 八番 | 細川潤次郎 |
| 九番 | 神田 孝平 |
| 十番 | 水本 成美 |
| 十一番 | 伊集院兼寛 |

第十三番	楠田 英世
第十四番	黒田 清綱
第十五番	大給 恒
第十七番	秋月 種樹
第十八番	東久世通禧
十九番	津田 一出
廿一番	河瀬 眞孝
廿二番	福羽 美静
廿五番	河田 景與
廿六番	伊丹 重賢
廿七番	楠本 正隆

○第百七十四號議案

示次議會編案第四百三十三號四月廿七番

午前第十時四十分開場

第六 内閣委員番外 太政官權大書記官村田 保

廿八番	安場 保和
廿九番	柴原 和
三十番	鶴田 皓

○議長 議長他ノ公事ニヨリ本官代理ヲ爲シ第百七十四號議案第三
 讀會ヲ開ク可シ蓋シ本案ハ急施ヲ要スルヲ以テ第二讀會ノ例ニ倣
 ヒ逐條朗讀ヲ用ヒス議長ノ見ヲ以テ決ヲ取ラントス先ツ第一目錄
 ヲ問題ニ附ス

刑法目錄

第一編 總則

第一章 法例

第二章 刑例

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 徵償處分

第五節 刑期計算

第六節 假出獄

第七節 期滿免除

第八節 復權

第三章 加減例

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第二節 自首減輕

第三節 酌量減輕

第五章 再犯加重

第六章 加減順序

第七章 數罪俱發

第八章 數人共犯

第一節 正犯

第二節 從犯

第九章 未遂犯罪

第十章 親屬例

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第二節 外患ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル事

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪

第五節 私ニ軍用ノ銃礮彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第三節 官ノ文章ヲ偽造スル罪

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第六節 偽證ノ罪

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關

スル罪

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第六章 風俗ヲ害スル罪

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二節 官民人民ニ對スル罪

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二節 毆打創傷ノ罪

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪

第四節 過失殺傷ノ罪

第五節 自殺ニ關スル罪

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第八節 墮胎ノ罪

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第二節 強盜ノ罪

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第四節 家資分散ニ關スル罪

第五節 詐欺取財及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第六節 贓物ニ關スル罪

第七節 放火失火ノ罪

第八節 決水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆沒スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四編 違警罪

○八番 細川潤 次郎 第三編第二章第五節ヲ詐僞取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ

關スル罪ト爲シ即チ第二編第三章第三節ト同文ナラシメンコトヲ欲

ス

○十番 水木 成美 賛成

○九番 神田 孝平 賛成

○二番 齋藤 利行 賛成

○十五番 大給 恒 賛成

○廿一番 河瀬 眞孝 賛成

○議長 八番ノ動議ニ定規ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 八番ノ修正ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十七人

○議長 多數ナルヲ以テ八番ノ修正ニ決ス

○三十番 鶴田 皓 目錄既ニ修正ト決セハ本文亦從テ修正セシモノト見

傲ス可キヤ

○八番 細川 潤 次郎 目錄修正セハ本文モ亦既ニ修正セシモノトス故ニ本

文ハ更ニ決ヲ取ルヲ要セサル可シ

○三十番 鶴田 皓 了解セリ

○議長 本文第一編ヨリ第五條ニ至ルヲ問題ニ附ス

刑法

第一編

第一章

第一條

第二條

第三條

第四條

第五條

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○三十 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ更ニ第二章刑例ヨリ第十一條ニ至ルヲ問題ニ附ス

第二章

第一節

第六條

第七條

第八條

第九條

第十條

第十一條

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○三十 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ尋テ第二節第十二條ヨリ第三十條ニ移ル可シ

第二節

第十二條 合議ノ事ニ付テハ本議ニ決スル事ヲ第一議者十二議トシテ
第十三條 議立

第十四條 議者ヲ以テ本案ヲ回イヌル者ハ議立セヨ

第十五條

第十六條

第十七條

第十八條

第十九條

第二十條

第二十一條

第二十二條

第二十三條

第二十四條

第二十五條

第二十六條

第二十七條

第二十八條

第二十九條

第三十條

○議長ノ發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○議者全員悉起立セヨ

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ尋テ第三節第三十一條ヨリ

○第四十四條ニ移ル可シ本案ニ決シ尋テ第三節第三十一條ヨリ

第三十第三節

第三十一條

第三十二條

第三十三條

第三十四條

第三十五條

第三十六條

第三十七條

第三十八條

第三十九條

第四十條

第四十一條

第四十二條

第四十三條

第四十四條

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

第四節 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ尋テ第四節第四十五條ヨリ

第五十二條ニ移ル可シ

第四節

第四十五條

第四十六條

第四十七條

第四十八條

第五節

第四十九條

第五十條

第五十一條

第五十二條

第六節

第五十三條

第五十四條

第五十五條

第五十六條

第五十七條

第七節

第五十八條

第五十九條

第六十條

第六十一條

第六十二條

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○ 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ次テ第八節第六十三條ヨリ第七十四條ニ移ル可シ

第六十三條

第六十四條

第六十五條

第三章

第六十六條

第六十七條

第六十八條

第四章

第六十九條

第七十條

第七十一條

第七十二條

第七十三條

第七十四條

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ次テ第四章第一節第七十五條ヨリ第八十四條ニ移ル可シ

第一節

- 第七十五條
- 第七十六條
- 第七十七條
- 第七十八條
- 第七十九條
- 第八十條
- 第八十一條
- 第八十二條
- 第八十三條
- 第八十四條

○議長 發議ナキヲ以テ本按ヲ可トスル者ハ起立セヨ
全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ尋テ第二節第八十五條ヨリ
第九十條ニ移ル可シ

第二節

- 第八十五條
- 第八十六條
- 第八十七條
- 第八十八條
- 第三節
- 第八十九條

第九十條

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ尋テ第五章第九十一條ヨリ

第百三條ニ移ル可シ

第五章

第九十一條

第九十二條

第九十三條

第九十四條

第九十五條

第九十六條

第九十七條

第九十八條

第六章

第九十九條

第七章

第百條

第百一條

第百二條

第百三條

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○ 全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ尋テ第八章第一節第四百條ヨリ第百十條ニ移ル可シ

第八章

第一節

第四百條

第四百五條

第四百六條

第四百七條

第四百八條

第二節

第九
第一百條

第十
第一百九條

○議長 發議ナキヲ以テ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

全員悉起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ尋テ第九章第百十一條ヨリ

第百十五條ニ移ル可シ

第九章

第百十一條

第百十二條

第百十三條

第十章

第百十四條

第百十五條

○廿九番柴原和

第百十四條ニ妾ノ字ヲ加ヘンコトヲ欲ス然レモ本條ハ
 第三百十一條第三百五十三條第三百五十四條第三百七十七條ニ牽
 連スルヲ以テ之ヲ併論セサルヲ得ス抑本按ハ數年ノ功ヲ積ミ完全
 整備ナルモノタルハ論ヲ俟タサレモ只妾ノ字ヲ掲ケサルヲ以テ修
 正ヲ欲スルハ止ムヲ得サルモノナリ其理由ハ第二讀會ニ陳述シタ
 ル如ク皇胤ヲ萬々世ニ傳フルト人民ノ安寧ヲ保スルトニアリ若シ
 妾ヲ廢セハ或ハ皇胤ヲ無窮ニ傳フルコトヲ得サルヲ恐ル人民モ亦祖
 先ノ血食セサルニ至ラン論者或ハ云ハン法律ニ妾ノ字ヲ刪リタル
 ノミ之ヲ聘スルハ默許ナリト是決シテ否ラス苟モ法律ニ公認セサ

ルモノハ私通和姦ナリ私通和姦ハ道德ノ許サ、ル所タリ若シ嫡子
 ナクシテ庶子アリ之ニ家ヲ繼カシムルモ乃チ私生ノ子ナリ子ニ於
 テハ罪ナキモ豈父母ノ心ニ耻サラシヤ竊ニ案スルニ妾ハ歐米諸國
 ノ取ラサル所ナルヲ以テ條約改正ニ際シ各國ニ對スルノ語柄アル
 可シト雖モ各國ニ對スルノ處置ハ本邦固有ノコトヲ主張シテ可ナリ
 現今戶籍ヲ調査セハ妾ノ籍ニ編ミタル者ハ僅少ナル可キモ附籍ト
 ナシ其實妾タルモノハ蓋シ夥多ナル可シ又第百十五條ニ嫡母庶子
 トアレハ全篇ノ主旨ト矛盾ス嫡母ト言フハ庶子ニ對スルノ稱呼ニ
 シテ庶子ハ即チ妾ノ子ナリ私生ノ子ハ法律ニ其私生ヲ公許スルモ
 ノト云フモ實際ハ嫡女子ハ私生ノ男子アルモ之ニ讓ラスシテ相當
 ノ配耦ヲ求メ其家ヲ繼クニ至ラン然ラハ祖先ノ祭祀ニ關係アル可

シ若シ妾ヲ蓄フハ不可ナリト爲サハ目下貴族豪家ニ蓄フ所ノ妾ヲ放棄セサル可ラス且外國人ノ至尊ニ進謁スルニ方リ特ニ其感觸ヲ生セシムル者ハ數千年來一系連綿ノ帝祚タルニ由ルナル可シ其然ル所以ノ原因ハ即チ典侍アルニ因レリ然ルヲ今之ヲ法律外ニ置ント欲スルハ太タ忍ヒサルヲナリ議者或ハ云ハン至尊ハ別ナリ刑法ノ關スル所ニアラスト豈ニ其レ然ランヤ古人云ク躬親カラセサレハ庶民信セスト依テ望ム茲ニ委員ヲ選定シテ之ヲ修正セラレントヲ

○十五番大給 廿九番ノ精神ニ賛成ス本官第一讀會ニ方リ付托修正委員トナリ讀テ本條ニ至リテ轉々感觸ヲ生シ其後再三熟慮スルニ追テ妾ノ名ヲ存スルヲ可ナリト信セリ何トナレハ本朝ハ古來擅權ノ大臣ナキニアラスト雖モ未タ神器ヲ覬覦スル者ナシ是畢竟皇胤

ノ一系連綿タルニヨルニアラストヤ而シテ其一系連綿タル所以ハ即チ侍妃ノ制アルヲ以テナリ然ルニ妾ノ名ヲ廢セハ勢ヒ侍妃ノ制ヲ廢スルニ至ラン刑典ハ上天子ヨリ下人民ニ至ルマテ遵守セサル可ラサルモノナリ若シ至尊ハ別物トナサハ甚タシキ害ヲ生ス可シ古人云ク食色ハ性ナリト眞ニ然リ然レトモ人ハ倫理ヲ守リ抑制シテ其欲ヲ恣ニスルヲ得サルノミ然ルニ隨意ニ和姦私通スルモ妨ナシトセハ其禽獸ト何ソ擇ンヤ茲ニ皇統ノ絶ヘサル綫ノ如キモ今幸ニ典侍ニ皇子ヲ誕シタルヲ以テ全國人民モ稍ヤ安心セルモノナリ外國ニ於テ英雄ノ興ルアレハ其目的ト爲ス所ハ必ス王位ニアリ然レトモ本朝未タ覬覦者ナキハ皇系ノ綿々タルヲ以テナリ其綿々タル者ハ妾ノ制アルカ故ノミ其目下妾ヲ廢セントスルハ國家ノ治安ヲ

謀ラサルモノ、言ノミ

○廿六番伊丹重賢 廿九番ヲ賛成ス意フニ國體風俗人情ニ於テモ妾ノ字

ハ删除ス可ラス若之ヲ删除セハ苟モ道德ヲ懷ク者寧ロ子ナキ妻ヲ去ルモ私生ノ子ヲ設クルヲ好マスシテ終ニ其繼續ヲ絶ツニ至ル可シ人民且然リ況ンヤ泝ツテ皇胤ニ於テヲヤ

○廿二番福羽美靜 廿九番ヲ賛成ス本官ハ法律ヲ設クルニ彼此支障ナキ

ヲ欲ス何トナレハ第百十五條ニハ適母庶子ノ字ヲ掲ケ而シテ第三百十一條ニ至リ妾ノ字面ナシ且妾ノ姦通スルアルモ之ヲ防クヲ得ス仍テ之ヲ法律ニ掲ケ完全ナランヲ希フナリ

○十番水本成美 本官モ亦廿九番ヲ賛成ス何トナレハ第百十五條ニ適庶

子ノ文字アリ庶ハ適ニ對スル語ナリタトヒ律面妾ノ字ハナキモ已

ニ隱然其影ヲ現セリ仍テ十分ニ討論シテ完全ノモノトナサント欲ス

○二番藤齋利行 廿九番ノ修正說ハ其極點ヲ論シタリ而テ其反對論者ハ

其極點ニ至ルノ弊ナシト論セリ兩說俱ニ理アリテ優劣ナキカ如シト雖モ遡テ之ヲ論究セハ却テ妾ヲ公認スルヲ穩當ナリトス妾ハ民法ニテ之ヲ定メント言フモ畢竟法律ヲ虛飾スルノミ各國ニ對スルハ法律ノ清淨ナルヲ可トスレトモ實際人情風俗ニ徴スレハ一夫一婦トナルヲ能ハス仍テ寧ロ妾ノ字ヲ存スルヲ妥當ナリトス

○議長 廿九番ノ說ニ五名以上ノ賛成アリ問題トス然ルニ既ニ正午ヲ過キタレハ少時休憩ス可シ散會セヨ

午後零時十分閉場

午後第一時四十五分開場

所勞ニヨリ欠席

一番

河瀬 眞孝

○議長 午前ノ續會ヲ開ク

○八番 細川潤次郎

本官ハ審査委員ナリ第百十四條ニ妾ノ字ヲ記セサル

ノ理由ヲ述ヘン抑本案ヲ輕々ニ看過セハ現行法律ニ於テ既ニ二等親ニ列セシモノヲ倏然變革シテ之ヲ刪除セシトノ感アル可シト雖モ本條ハ最モ意ヲ鄭重ニ注キ審考詳查以テ太政大臣ノ認可ヲ得始テ此ニ決定セルモノナリ假令他條ハ或ハ誤リアルモ本條ニ於テハ決シテ其誤リナキヲ信ス蓋シ國體ハ永遠ニ之ヲ保存スルヲ可トストハ固ヨリ然リト雖モ時勢ノ然ヲシムル所自カラ亦變遷ナキ能ハス又世界ノ大勢ニハ抗抵スヘカラサルモノアリ茲ニ近來頻リニ人

民ノ權利ト云フコトヲ唱フ是レ外洋ノ輸入物ニシテ舊觀ヲ以テ之ヲ看レハ所謂民權ナルモノハ政府ニ對シ皇室ニ對シ抗抵スルノ具ニシテ大ニ妨害アルモノ、如キモ之ヲ平心虛氣ニシテ考フレハ誠ニ天賦ノ尊ムヘキモノナリ蓋シ其權利ハ何ニ存スルカラ問ヘハ即チ人ニアリ既ニ人ニアリ人豈ニ男女ノ別アラシヤ即チ人ハ均一ナルモノナリトハ是レ各國普通ノ法律ニ掲クル所ナリ既ニ男女均一ノ權利ナリト云フ故ニ男女同等ノ論生シ若シ之ヲ殺セハ其男女老幼ヲ問ハス死ニ入ルノ法律ハ全世界皆ナ同一般タリ但シ其弊害ノ如キハ姑ク閣キ其道理ニ於テハ到底之ヲ磨滅スルコトヲ得サルモノナリ夫レ已ニ男女トモニ同一ノ權利ヲ有ス而シテ其名稱ニ至ツテハ父母兄弟夫妻ト云フ此夫妻ナルモノハ固ヨリ眞正ナルモノナリ然

ルニ別ニ妾ナルモノアリ日本西洋其名稱ト配耦トノ法ハ各殊ナルモ古今皆之アルナリ本邦ハ既ニ大寶令ニ掲ケ其父母ヲモ親屬ト爲ス又西洋ニハコンキバイヒト云ヒ其有無ノ間ニ在ルモノアリ仍テ其妾タルモノヲ以テ之ヲ宇宙間ニ通シテ論スルトキハ其夫妻ノ名義ハ動カスト雖モ妾ハ動ク者トス然ルニ今妻ニ亞キ婢ノ如キモノヲ以テ法律ニ掲クルハ最モ立法者ノ困却スル所ナリ抑モ古來各國其未開ノ時ニ方リテハ共ニ奴隸ナルモノアリテ良賤ノ差別ヲ立ツ彼本邦娼妓ノ如キ即奴隸ナリ向ニ維新ノ後「マリヤルス船」一件ノ時ニ當リ議論沸起遂ニ之ヲ解放セリ即チ奴隸ヲ良民ト爲シタルナリ今ヤ既ニ奴隸牛馬視シタル娼妓一般ノ妾ヲ以テ之ヲ刑法ニ保護セントスルハ何ノ「ソヤ」蓋シ妻ハ夫ノ對等ナリ妾ハ等ノ下リタルモ

ノナリ故ニ夫妻ニ恭敬ヲ盡シ之ニ奉仕セサル可ラス是レ娼妓ト相去ル「跬步」ノミ之ヲ法律ニ公認スルハ實ニ不可ナルモノナリ又民法ニ於ルモ其妾ニ子ナケレハ可ナリ若シ之レアレハ甚タ困却ナル可シ何トナレハ均シク是同等權利ノ人類ヲ以テ數等下リタル種屬ト看倣サルヲ得サルヲ以テナリ本官ハ人權ヲ重スルヨリ之ヲ法律ニ明認スル「コ」ヲ欲セス是其最モ強キ點ナリ又其影響ニ付テ論スルトキハ良子ヲ教育シ智識ヲ陶成シ富強ノ基ヲ開クノ急務タルハ論ヲ待ス而シテ其教育ハ母ヨリ善キハナシ乃チ母ヲ重スルハ教育ヲ重スルナリ素ヨリ妾婢ノ如キ卑賤ナル者ニ教育ヲ任ス可ラス此故ニ本官ハ妾ヲ法律上ニ置クハ萬々不可ナリトス

○廿二番 福羽美靜

法律ヲ布クハ行ハル、ヲ主トス可シ又法律ハ國家ノ

安寧ヲ保ツヲ主トス然レモ一ノ枝梧アレハ良法モ直ニ變シテ惡法トナル本按ニ妾ヲ加ヘサルハ間然ナキ能ハス何トナレハ舊來ノ習慣ハ一時ニ矯正ス可キニアラス漸ヲ以テ爲ス可キナリ本邦太古ノ景況ヲ顧レハ其痕跡ハ假令野蠻ノ如キ者アルモ多ク子孫ヲ生シテ國ヲ組織セリ其體裁制度ノ粲然トシテ見ル可キモノハ奈良ノ朝ニ昉レリ即チ大寶令是ナリ該律ニ妾ヲ二等親ニ加ヘタルハ專ラ子孫繁榮ヲ圖ルニ外ナラス爾來人智開明ニ從ヒ勤メテ其耻ツ可キ行爲ハ避ク可シトシ己ニ新律綱領ニ妾ノ名アレモ其待遇スル所口大ニ彼ニ異ナリ維新以來未タ十餘年ヲ過キサレハ先ツ姑ク目今ノ實況ニ從フテ可ナリ然レモ本官決シテ妾ヲ蓄フヲ善ナリトスルニアラス要スルニ俄然舊慣ヲ變スルヲ不可ト爲スノミ既ニ第百十五條ニ

嫡母ト庶子ト掲ケタルヲ以テ見ルトキハ即チ妾ヲ默許セシ者ナル可シ今妾ヲ掲ケスシテ徒ニ虚飾ヲ爲スハ恰モ假面ヲ装テ人ヲ嚇スルカ如シ之ヲ極論セハ廿九番ノ如ク遂ニ至尊ニ論及セサルヲ得ス至尊ハ法律ノ及フモノニアラスト雖モ亦法律外ノ事爲ハ聖心ニ憐ラサルヤ必然ナリ故ニ俄然妾ヲ廢スルハ不可ナリトス曾テ本院ニ於テ或ル議官カ有妻更娶律ノ意見書ヲ提出シ本官モ之ニ同意シテ上申セシコアリ蓋シ有妻更娶ハ一方ノ妻ニ約束ヲ破ル道理ナルヲ以テナリ妾ヲ蓄フモ同一ノ道理ヨリ云ヘハ決シテ善良ナルモノニアラスト雖モ亦西洋ノ男女同權論ヲ以テ之ヲ襲用スヘカラサルモノアリ何トナレハ彼ノ法律ニモ妻ノ姦通ハ之ヲ罰スルモ夫ノ姦通ハ之ヲ罰セス乃チ偏頗ト言ハサル可カラス或ル議官ハ娼妓ト同一

ニ論シ去レトモ決シテ否ラス古昔ノ妾ハ尊ク今日ノ妾ハ賤シキモ未タ以テ卒ニ婢ノ下タル者ニアラス畢竟驕奢ヨリシテ蓄フル所口ノ妾ハ或ハ廢ス可キモ有用ノ妾ハ斷シテ廢ス可ラス

○十三番 楠田英世

妾ヲ置クト否トハ重大ノコニシテ本刑法設立ニ方リ

之ヲ詳論スルハ誠ニ當然ノコナリ抑々妾ノ性質如何ヲ論究セサレハ其廢否ノ論ニ及ハサルナリ蓋シ妾ハ豪族政治ノ習慣ナリ天子諸侯大夫皆ナ數多ノ妾ヲ置キ名ヲ祖先ノ祭ヲ承ルニ托シ而シテ人民ニハ之ヲ許サス是レ己レノミ孝ヲ爲スモ人ヲシテ不孝ニ陷ラシムルモノナリ上古ノ妾ハ廿二番ノ說ノ如シ然レモ妾ノ沿革三段アリ妾ナルモノハ夫ト稱スルコヲ得ス呼テ旦那様ト云ヒ妻ヲ奥様ト云フ即チ一生奉公ノ女ナリ此ノ如キ者ハ今日ニシテ跡ヲ止ム可キニ

アラス然ルニ之ヲ法律ニ公認スルハ國家ノ政治ニ關スルコト大ナリ又皇胤ニ論及スルモ決シテ否ラス本朝四親王家ノ設ケアルハ即チ皇統繼承ノ爲メナリ凡法律ノ君上ニ及フコトハ萬國未タ其比ヲ見ス蓋シ君上ニ不善ナシトスルニ在ルヲ以テナリ彼典侍ノ如キモ遂ニ皇上親カラ之ヲ廢セラル、ヤ未タ知ル可ラス今ニシテ妾ヲ廢スルハ必ス以テ適度ニ至レリト認メタルニアラスト雖モ是人民ヲ文明ニ導クノ端緒ナルノミナラス一生奉公ヲ爲スヲ可トスルカ如キ法律ヲ設クルハ國家ノ瑕辱ナリ本官固ヨリ之ヲ不可ナリトス國ノ旺盛ヲ致スハ人々自立スルヲ以テ基本ト爲スモノナリ修正說ノ如キハ怪訝ノ言ト謂ハサルヲ得ス

○三十番 鶴田皓

起草以來本條ニ付テハ殊ニ苦心セシモノナリ仍テ其

要旨ヲ述フ可シ本條ニ妾ノ字ナキモ之ヲ以テ妾ヲ廢スト云フニア
 ラス抑々新律綱領ニ妾ヲ二等親ニ列セシハ大寶令ニ從ヒタル者ナ
 リ當時ハ維新草創ニシテ政府ノ指令ニヨリ成レルモノトス然レモ
 彼大寶令ニハ何ノ爲メニ之ヲ入レシヤ支那律ノ如キ總テ之ヲ入レ
 ス其出處得テ詳ニス可ラス又之ヲ二等親中ニ編入スルハ乃チ妻妾
 ヲ同等ニ待遇スルモノナリ此ノ如キハ未タ曾テ之レアラサルコニ
 テ實ニ解ス可ラサルモノトス既ニ其解ス可ラサルモノナルヲ以テ
 不可トシ本按之ヲ掲ケサリシ反對論者ハ又延テ至尊ニ論及スト雖
 モ決シテ然ル理由ノモノニアラス蓋シ各國トモニ國王ハ法律ノ間
 フ所ニアラサレハナリ既ニ大寶令ニ明文アリ支那律モ亦然リ且ヤ
 大寶令ノ妾ナルモノハ至尊ノ侍妃ヲ云ヒタルモノニアラサルハ明

々白々タルニ於テヲヤ然レモ妾ハ全ク廢スルニアラス即チ第一百十
 五條ニモ庶子ト掲ケテ以テ妾アルコトヲ示セリ論者或ハ云フ隱然已
 ニ妾アルヲ示ス何ソ等親ニ入ル、ヲ欲セサルヤト是決シテ等親ニ
 入ル可キ者ニアラス何トナレハ古來皇族ハ固ヨリ華族ノ如キ之ヲ
 置モ亦家族中ニ加ヘス即チ臣妾ノ謂ナレハナリ支那律ニモ妾ハ夫
 ト呼ハスシテ家長ト呼フヲ以テスルモ亦知ル可シ本按ニ之ヲ掲ケ
 サルノ理由既ニ此ノ如シ今ヤ刑法改正ノ時ニ方リ尙且新律綱領ノ
 誤ヲ襲ハントスルハ豈ニ不可ナラスヤ然ルニ廿九番ノ說ノ如ク之
 ヲ等親ニ入ル可シト爲サハ第百十五條ハ配偶者云々ト爲サスシテ
 同等ノ親族ニ入レサル可ラス亦不都合ナラスヤ仍テ妾ハ雇人ト爲
 シ別段ナルモノト爲スヲ可トス尤モ雇人ナレハ給金ヲ與フル者タ

リ若シ夫レ給金ヲ與フル者ヲ擧ケテ之ヲ親屬ト爲セハ婢僕モ亦親屬ト爲ヌヲ得可キカ此ノ如キ理由ハ萬々有ルコナカルヘシ又賛成者ノ感觸スル所ハ往々皇胤ノ一點ニ在ルカ如シト雖モ是レ決シテ心配ニ及ハス蓋シ侍妃ヲシテ皇族タラシムル能ハサルハ猶人民ノ妾ヲシテ親屬タラシムル能ハサルカ如シ其親屬ト爲ス可ラサル理由ハ猶後條ニ至リテ辨解ス可シ

○九番神田孝平 本官ハ原案ヲ主持ス抑モ妾ノ字ヲ刪リシハ重大ナル理由アルユヘナリ惟フニ其重大ナル者ハ本邦ノ獨立安寧ニアリ故ニ法律ハ務メテ萬國ト平均ヲ得サル可ラス然ルニ妾ハ萬國俱ニ賤ム所ノモノナリ今之ヲ法律ニ掲クルトキハ萬國對等ノ權ヲ得ヘカラスシテ終ニ獨立安寧ヲ保スル能ハサルノ原因トナル可シ是ヲ以テ

本官ハ一步ヲ進メ本朝亦彼一夫一婦ノ正道ニ倣ヒ斷然妾ヲ廢シテ萬國ト併立ヲ謀ラサル可ラサルモノトス

○廿九番柴原和 八番ノ說ニ妾ハ教育ヲ害スルト云フ是レ却テ本官ノ說ヲ助クルモノナリ妾ヲ牛馬視セハ其弊害アルヘケレト若シ之ヲ牛馬視セサレハ更ニ其弊害ナカル可シ或ル議官ハ皇胤ノ綿々ハ諸親王アルヲ以テ憂フルニ足ラスト云ヒ又至尊モ遂ニ躬親ヲ侍妃ヲモ廢セラル、ニ至ルヘシト云ト雖モ本官ハ甚々之ヲ不可ナリトス其繼嗣ノ道ヲ廣ムルヲカメスンハ諸親王ノ後繼モ亦絶ル、ニ至ルナキヲ保タス本官ハ皇統ノ綿々トシテ人民ノ安寧ヲ希フノミ又第百十五條ニ嫡母庶子トアレハ隱然ト妾アルヲ示スニアラスヤ既ニ之ヲ示ス何ソ掲クルヲ欲セサルヤ

○外番一保番村田

本按ハ廿九番ノ動議ニ由リ修正委員中ノ二名モ忽チ前説ヲ變シテ之ニ雷同セリ然ルニ廿九番ノ説ハ畢竟誤解ヨリ出ルモノトス何トナレハ第一ニ皇胤ノ綿々第二ニ人民ノ安寧ヲ保ツト云フヲ以テ論鋒ト爲スニ過キサルヲ以ナリ今縱令ヒ妾ノ一字ヲ記入セサルモ廿九番ノ第一第二ノ説ノ行ハレサルノ理ナシ蓋シ廿九番ノ精神ハ妾ノ字ヲ記載セサレハ妾ヲ蓄フコトヲ得サルモノト誤認シタルナラン決シテ然ルニアラス又妾ノ字ハ典侍等ヲ指テ云フ如キ説アレトモ妾ノ字ヲ記スルハ其親屬ト定ムルニ在ルナリ既ニ親屬ニアラサル典侍ニ於テ何ノ關係アリヤ前會屢次論セシ如ク妾ノ字ヲ刪リシハ政府ノ旨ニアリ典侍ヲ親屬ト爲スノ意ナキコト素ヨリ分明ナリ或ル議官ハ古昔ハ妾ハ尊キモノナリト云ト雖モ今ヤ太タ

賤シ若シ本條ニ妻妾ト連子記スルトキハ却テ古昔ヨリモ之ヲ尊信スルニ至ラン且本刑法中ニ重婚ノ罪アリ若シ妾ヲ妻ト同掲スルトキハ彼レニ矛盾スルナリ抑刑法ヲ改正スルニ方リテハ治罪法民法等ノ權衡ヲモ亦酌取セサル可ラス其萬一妾ヲ刑法ニ掲載セハ外國人ノ甚タ卑視スル所ノ所謂コンキバイヒノ語トナリテ禽獸ト同一視スルニ至ラン仍テ妾ヲ親屬中ニ編入スルハ到底不可ナリ

○十番水本
成美

第百十五條ニ嫡母庶子ノ字アレハ妾ハ現ニアルヲ示セリ想フニ二十九番ニ於テモ修正ノ困難ナルハ唯妾ノ字ヲ入ル、ノ場所ナル可シ又既ニ嫡母庶子ノ字ヲ掲ケテ妾アルヲ示セハ從テ其刑及ヒ其順序ナカル可ラスト云ニ外ナラサル可シ今ヤ衆説紛々ニシテ當アリ不當アリト雖モ要スルニ妾ノ名ハ存スルヲ可トス之ヲ

親屬ニ入ル可ラス廿九番ノ典侍ヲ引証スルハ當ラス何トナレハ典侍ヲ皇族ニ入ル可ラサレハナリ既ニ嫡母アレハ庶母アリ庶母ハ即チ妾ナリ然レモ廿九番モ必ラス亦妾ヲ等親ニ入ル、ノ主意ニハアラサル可シ抑刑法ハ全篇牽連スルモノナレハ容易ニ之ヲ加除ス可ラス宜シク委員ヲ設テ之ヲ修正ニ付ス可シ

○議長 廿九番ノ説ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者十二人

○議長 多數ナルヲ以テ廿九番ノ説ニ決ス

○廿二番 福羽 美静 本官惟フニ本案ハ已ニ數回ノ調査ヲ經タレハ之ヲ原委員ニ托セハ委員亦困難ナル可シ仍テ更ニ五名ノ公撰委員ヲ置カシムヲ希フ

○四番 津田 眞道 廿二番ノ建議ヲ賛成ス

○議長 廿二番ノ建議ニ賛成者アリト雖モ會議ヲ迅速ナラシメン爲メ議長ノ特權ヲ以テ之ヲ選擇ス可シ乃チ廿九番 柴原 水本 壹番 和 成 美 玉乃 大給 恒 十五番 津田 出 十九番 津田 ノ五名ヲ以テ委員ト爲ス本日ハ此ニ訖リ明日引續キノ會議ヲ開ク可シ散會セヨ

午後第三時三十七分開場

○第百十四號議案
 出願者 廿一番 河瀬 眞孝
 廿六番 伊丹 重賢
 廿七番 楠本 正隆
 廿八番 安場 保和

十一番 伊集院兼寛
 十二番 岩下 方平
 十四番 黒田 清綱
 十五番 大給 恒
 十七番 秋月 種樹
 十八番 東久世通禧
 十九番 津田 一 出

午前第十時開場

内閣委員 番外 太政官權大書記官村田 保

三十番 鶴田 皓

三十一番 箕作 麟祥

三十二番 渡邊 驥

三十三番 本田 親雄

○議長 議長ハ他ノ公用アリ本官代理ヲ爲シテ第百七十四號議案第

三讀續會ヲ開ク可シ然ルニ前會第百十四條ニ至リ廿九番ノ修正説

ニ由リ更ニ修正委員ヲ撰定セシニ報告書既ニ成リ之ヲ各位ニ配付

セリ故ニ慣例ニ遵ヒ再修正案ヲ以テ本按ト爲ス可シ

書記官 森山 左ノ案ヲ朗讀ス

第百十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云

- 一 祖父母父母夫妻妾
- 二 子孫及ヒ其夫妻
- 三 兄弟姉妹及ヒ其夫妻
- 四 兄弟姉妹ノ子及ヒ其夫妻
- 五 父母ノ兄弟姉妹及ヒ其夫妻
- 六 父母ノ兄弟姉妹ノ子
- 七 夫妻ノ祖父母父母
- 八 夫妻ノ兄弟姉妹及ヒ其夫妻
- 九 夫妻ノ兄弟姉妹ノ子

十 夫妻ノ父母ノ兄弟姉妹

○十番 水本 成美

本案妾ヲ加フルハ廿九番ノ發議ニ由リ修正案ヲ作り報
 告セシヲ以テ本場ノ問題トハナレリ本官モ亦修正委員タルヲ以テ
 再ヒ妾ヲ加ヘサル可ラサルノ理由ヲ述フ可シ夫レ妾ヲ納ル、所以ヲ
 繹メルニ正妻ニ子ナキ乎或ハ瘋癲若クハ多病死亡等ニテ其血統ヲ
 嗣キ其家事ヲ治ムルヲ能ハサルニヨリ家政ヲ代理セシムルナリ又
 男子ノ情慾ヲ恣ニスル爲メ此ニ至ルモノアリ然ルニ妾ヲ以テ親屬
 ト爲ス可キヤ雇人ト爲ス可キヤト言フニ往昔ハ君臣ノ別アルヲ以
 テ之ヲ雇人ト爲スモ可ナリト雖モ今ヤ然ラス至尊ヲ除クノ外華士
 族已下人權同等ニシテ素ヨリ君臣ト稱ス可キモノアラス且近年雇
 人年限ノ制アルヲ以テ獨リ妾ノミヲ終身雇ト爲サントスルモ是レ

法律ノ許サ、ル所殊ニ近來家長雇人ノ區域明瞭ナルヲ以テ古昔君臣タルカ如キ能ハサルハ論ヲ待タサルナリ故ニ正妻或ハ卑屬ノ親ヲ御スルヨリ寧口雇人ヲ御スルニ難キ情アラシムルニ至ル然ルニ妾ハ已ニ雇人ト爲サンカ素是家長ト枕席ヲ同クスルモノナリ其妾若シ犯姦ノコアルニ方リ豈炊婢ト同一ノ看ヲ爲スヲ得可ケンヤ又品物ヲ竊取センニ之ヲ尋常人視シ告發以テ刑ヲ受ケシムルハ情ノ忍ヒサル所ナラン又雇人タル妾出ノ子ハ母ナキノ子ニシテ姦通私生ト同シク妻出ノ子ト對等ナルコト能ハス此情理ヲ酌量スレハ妾ヲ雇人トスルハ最モ不可ナリ故ニ之ヲ親屬ニ列シ法ニ依テ籍ヲ送り亞妻ノ地位ヲ與フルトキハ其生子亦恃怙アルヲ以テ公然之ヲ當該官廳ノ帳簿ニ登記スルモ支障ナカルヘシ是ノ如クニシテ始テ事理安

當ヲ得ンカ又妻妾ノ權理如何ヲ問フニ妻ハ其父母姊妹兄弟皆親屬ニ列シ妾ハ其一身ニ止マルノ差アリ論者或ハ云ハン妻妾共ニ夫アリ而シテ此ニ厚ク彼ニ薄キハ不公平ナラスヤト豈ニ其レ然ランヤ妾タルモノハ其父母ノ親屬タルヲ得サルノ法律ヲ承認シテ聘ニ應シ即チ約束上ヨリ成ルモノナレハ敢テ不公平ヲ鳴ラスノ理ナシ然ルニ此ノ如クンハ帝室ノ妃嬪ハ果シテ皇族ト爲ス可キ乎ト云ンニ是決シテ然ラス抑モ天子ハ法權ノ及フ所ニアラス法權ニ遵フモノハ華士族以下ニ止マルナリ況ンヤ天子ニ妃嬪夫人アリ即チ妃ハ三品嬪ハ四品夫人ハ五品ニ位スルハ古來ノ制ナルニ於テヤ既ニシテ妾ノ字ヲ加フルノ條項將タ何レニ定ム可キヤヲ考究スルニ復タ本條ニ優ルモノナシ乃チ茲ニ掲出セルナリ畢竟本邦古來聘妾ノコ

ハ歴々法律ニ掲載セシヲ今俄然其名ヲ削リ去テ法律ノ外面ヲ節ル
 ハ内省耻ツヘキノ至リナリ且此法律ヲ改正スルモ妾ヲ廢スルノ精
 神ヨリ起リシモノニアラス然ルニ今舊律ニ反シ翻然之ヲ削リ以テ
 布告スルニ至ラハ外人或ハ云ハン日本ハ妻ノ外一種奇怪ノ配耦者
 アリテ殆ント牛馬ト等シク之ヲ淫役ニ供セシム而シテ適マ其間ニ
 生子アレハ何ヲ以テ之ヲ法律ニ問フヤト難セラルトキハ恐ラク
 辭辨ナカル可シ以上陳スル所ハ本案ノ此ノ如クナラサル可ラサル
 ノ概由ナリ

○十五番 大給恒

本邦古來習慣ノ妾ヲ一朝削除スルハ殊ニ人民ハ一夫
 一婦ノ制ト爲シ而シテ天子ハ然ラスト云カ如キモノニシテ最モ允
 當ナラス本條若シ之ヲ掲ケサルトキハ現ニ在ル所ノ妾ヲ待ツニ如

何トモスルコ能ハサルニ至ラン皇統ノ連綿タルハ皇胤繁昌ノ習慣
 アルヲ以テナリ若シ妾ヲ廢シテ取ラサルトキハ終ニ皇胤ヲ絶ツニ
 至ルモ亦知ル可ラス畏クモ今上皇帝ハ尙ホ一皇子ニ過キス本官等
 憂喜ノ常ニ胸間ニ往來スル所ナリ故ニ天子ニハ妃嬪ヲ侍セシムル
 舊ノ如クシ愈其皇胤ヲ盛ニセンコヲ欲スルナリ前會ニ於テ反對論
 者ノ言ヲ聞クニ妾ノ字ヲ削ラハ或ハ至尊ニ及フモ知ル可ラスト雖
 モ云々ノ説アリ已ニ其感觸アリトセハ本官ト説ヲ同フセサル可ラ
 ス又妾ノ字ヲ削除シ我刑法ハ如此ナリト外人ニ示サンニ或ハ其名
 ハ美ナリト雖モ却テ民法ニ於テ之ヲ約束スルトキハ獨リ刑法ヲ外
 人ニ示シ民法ハ外人ニ示サ、ルモノト爲スカ是決シテ能ハサルモ
 ノナリ苟モ此ニ削リテ彼ニ存スルカ如キハ亦タ何ノ美カ之アラン

所謂掩耳竊鈴ノ類ナリ故ニ表面一夫一婦ノ制ニ倣ヒ本刑律ヲ以テ
外人ニ示シ彼治外法權ヲ復セントスルモ其名實相副ハスンハ決シ
テ之ヲ得可ラヌ又或ハ男女同權一夫一婦ト云フモ本官ハ人類社會
ニ向テ果シテ男女同權ナリヤヲ明言スル能ハス蓋シ歐洲ノ刑律ヲ
見ルニ姦夫奸婦ヲ奸處ニ殺スハ其罪ヲ論セストアリ而シテ婦ハ其
夫ノ奸ヲ告發スルヲ得ヌ又其夫并其姦婦ヲ姦所ニ殺スモ其罪ヲ問
ハスト言フノ正條ナシ然ラハ則是ノ如キ貌似ノコヲ爲サンヨリ寧
ロ古來ノ慣習ヲ固ウシテ以テ皇胤ヲ萬世ニ承ケ君臣ノ道ヲ重セン
コヲ求ムルニ如カス之レ本官ノ修正ヲ欲スル所以ナリ

○三十番鶴田皓 本官ハ妾ノ存廢如何ヲ論スルニ先タチ修正委員ニ質
問セント欲ス本條第一項祖父母父母夫妻妾トアリ妻ノ夫ニ對シテ

夫ト呼フハ當然ト雖モ妾ノ夫ニ對スルモ亦夫ト稱シ即夫妻ト稱ス
ルヲ得ル乎已ニ夫妻ト稱スルヲ得レハ妻妾ノ間亦親屬ト爲スヲ得
ル乎第二項以下ヲ見ルニ配耦者ヲ夫妻ト修正シ而シテ妾ヲ記セス
是夫妻ハ配耦者ト謂フ可ラサル乎本案中配耦者ノ目多シ之ヲ認定
スルニ太タ迷惑セリ第七項夫妻ノ祖父母父母トアリテ妾ノ祖父母
父母ヲ記セス已ニ夫妻ト稱スルヲ得ハ妾ノ祖父母父母ト記スルモ
何ッ妨ケン以上ノ辨解ヲ得テ更ニ其所見ヲ述ヘントス

○十番水本成美 第一項夫妻妾トアレハ妾モ亦夫ト稱ス可キナリ第二項
子孫及其配耦者ハ夫妻ノ間ニアルノミ妾ハ之ニ與カラズ第七項亦
同シ之ヲ要スルニ妾ハ父母ニ及ハス其一身ニ止ルノミ乃チ第二百
五十四條重婚律ニ分別ヲ爲セリ

○四番津田
真道

本官ハ前會妾ノ字ヲ加フルニ左袒セシモ熟考以テ其謬
妄ヲ識ルヲ得タリ然リト雖氏本官ノ前ニ左袒セシハ十番十五番ノ
如キ皇統云々ニ因ルニアラス即チ今日本邦ノ實況ヲ見ルニ一夫一
婦ノ説果シテ行ハル、ヲ得可キ乎其行ハレサルヤ言ハスシテ知ル
可キナリ我邦古來ヨリ資力アルモノハ數妾ヲ聘スルヲ得ルノ國風
ナリ故ニ一朝之ヲ廢スルヲ以テ不可ナリトスト是レ前ニ存妾説ニ
同意セシ所以ナリ今又縱然前説ヲ變セシモノハ天下ノ大勢ヲ洞觀
スルニ遂ニ原案ノ如キ完全ナル法律ヲ制定セサル可ラスト信スレ
ハナリ是レ自然ノ理勢ニシテ即チ天ニ順フモノト謂ンカ蓋シ天ニ
順フモノハ昌ヘ天ニ逆フモノ、亡フハ古今皆然リ彼嘉永癸丑米使
阿ルリ氏來舶ノ時ニ方リ其有志ト稱スル者ハ概子皆扼腕切齒ノ攘

夷家ノミ而ノ能ク之ヲ攘ヒ得ルヤト顧ミルニ國貧ク兵弱シ礮聲一
發忽チ城下盟ヲ爲スニ至ル可キヲ悟リ終ニ開港ノ基ヲ開キタルハ
乃チ天下ノ大勢ニ從ヒ所謂天ニ順ヒテ昌ヲ致セシヲ知ルニ足ル可
シ又先帝詔シテ國焦土トナルモ外夷攘フ可シ耶蘇教斥ク可シト誓
ヒ玉フ然ルヲ今上ハ之ニ反シ廣ク交ヲ各國ニ締シ耶蘇教モ亦日ヲ
逐テ蔓延ス是レ先帝ニ對シテハ或ハ不孝ナルカ如シト雖氏決シテ
然ラス若シ先勅ヲ奉セハ國焦土ト爲リ或ハ祀ヲ斷ツニ至ル故ニ其
然ランヨリ寧ロ社稷ヲ保ツニ如カストノ廟謨一定今日ノ開明ヲ致
セシモ亦天下ノ大勢ニ從フモノナリ彼ノ「インヂヤン」即チ亞米利加
土人ノ如キハ痛ク白哲ノ人種ヲ嫌ヒ漫ニ其力ヲ量ラス今猶ホ鐵道
線ニ偃臥シ身ヲ殺シテ之ヲ攘ハントスルノ風ヲ存シ終ニ其種族ヲ

絶ツニ瀕ス是レ天ニ順ハスシテ亡ニ就クモノナリ古昔佛法東漸スルヤ聖徳太子該教ノ善ヲ看破シ周ク之ヲ國內ニ播カントスルニ方リ守屋勝海等頑固トシテ之ヲ拒斥シ身鋒鏑ニ死スルモ該教終ニ國內ニ蔓延ス亦天ニ順逆シテ昌亡スルノ例ナリ天智ノ御宇支那ノ制ヲ學フモ亦然リ若シ我邦古來ノ制ヲ主張シ執拗動カスンハ乃チ膠柱鼓瑟ノ類ニシテ豈ニ今日ノ文物制度ヲ見ルヲ得ンヤ況ヤ將來ヲ期スルニ於テヲヤ更ニ本邦ノ舊時ヲ顧ミレバ僅々十圓金ヲ盜ムモノモ斬ニ處スルヲ以テ法トセリ然ルニ其斬罪ヲ廢スルヤ賊盜遽ニ群起シ諸弊從テ生ス故ニ當時ニ在テハ之ヲ廢スル尙早シトセシモ今ニシテ之ヲ觀レハ即チ天ニ順ヒシモノト言サル可ラス抑新律綱領妾ヲ二等親ニ列セシハ其據ル所ヲ知ラス大寶令之ヲ載スルハ蓋

シ當時ノ風習數妻ヲ聘スルモノヲ以テ豪トシ華トセシニ由ルモノニシテ我邦古昔一夫衆妻ノ風習タルヲ証スルニ足ル蓋シ彼ノ帝舜ノ如キ大聖人ナリト尊ムモ堯ノ二女ヲ妻トセリ今ヨリ之ヲ見レハ或ハ之ヲ禽獸ニ似タリト云モ誣言ニハアラス然レモ是亦當時開化ノ度ニ順フモノナラン故ニ本官ハ前說ノ謬見ヲ去リ更ニ舊ヲ革タメ新ニ就キ本案如此ナラサル可ラサルモノト爲ス假令ヒ妾ヲ廢スルハ尙早シトスルアルモ亦天ニ順ハサルヲ得サルナリ

○十九番 津田 本官ハ修正委員ノ一人ナレト特別ノ建議ヲ爲サント欲ス今三十番ノ質問ヲ聞キ修正ノ未タ至ラサル所アルヲ發見セリ仍テ更ニ再修正ヲ爲サンコトヲ望ム

○十四番

黒田
清綱

賛成

○十番

水本
成美

賛成

○議長

十九番ノ建議ヲ衆議ニ問ハントス

○五番

柳原
前光

十九番ノ建議ヲ決スルニ先タチ一言セサル可ラス抑本條ヲ決スルハ妾ノ存廢如何ニ在リ故ニ若シ之ヲ廢スルニ決セハ何ソ其再修正ヲ要センヤ本官ハ到底削除ノ持論ナルヲ以テ預メ之ヲ陳述スヘシ蓋シ上古一夫衆妻ヲ兼ルハ各國同一ナリ我邦天子ノ后妃國語之ヲキサキト稱ス且二后並立セシコハ中葉ニ至ルマテ皆然リ即チ北畠親房ノ著書ニ詳カナリ其他類例多シ漢土黃帝ハ一夫衆妻ニシテ娥皇女英ハ姉妹一夫ノ帝舜ニ事ヘタルナリ西洋印度埃及希臘ノ古俗ハ一夫衆妻ニシテ亞刺比亞土耳其格ハ今尙ホ其遺俗ヲ存ス中古文化漸ク開ケ西洋ニテハ羅馬ノ時始テ妾ノ名起リ妻ト區別

シ漢土ニテハ周代ヨリ妻妾ヲ別チ尊卑ヲ正シタリト考フ周禮ニ曰ク聘則爲妻奔則爲妾又大戴禮ニ婚妾ト曰ハスシテ買妾ト云皆之ヲ賤シムノ辭ナリ妻ハ齊ナリ即チ夫ト齊シク匹敵スル者ニシテ妾ハ臣僕ノ類ナリ故ニ妻ヨリハ夫ト稱シ妾ヨリハ家長ト稱ス大寶ノ儀制令ニ妾ヲ以テ妻ト併セテ之ヲ二等親ニ列セシハ上古衆妻ノ遺風ヲ因襲セルモノナリ新律綱領ハ政府ノ特命ヲ以テ創定シ單ニ大寶令ニ據ルニ過キス方今人文進歩ノ時ニ際シ妾ヲ妻ト併列シ之ヲ刑法ニ保護スルハ啻ニ守舊姑息ナルノミナラス又時勢ニ反スト云フ可シ且上古ハ一夫衆妻其後ハ妻妾ノ尊卑ヲ分チ今ヤ刑法上之ヲ保護セスト爲スハ蓋シ時勢ニ從ヒ進歩スルノ順序ヲ得ル者ト謂フ可シ又外國交際上ニ在テモ大ニ不可ナルコアリ現今聖上皇子女ヲ誕

セラル、ヤ嫡出ハ必ス之ヲ外國ニ報告セラルヘシ是萬國公法載ル所締盟各國ノ君主ハ兄弟ノ情誼ヲ以テ交際シ吉凶相報知スルノ通規ナリ然リ而シテ現ニ之カ報知ナキモノハ乃チ庶出ヲ以テ憚ラル、ナリ然リト雖モ他日帝統ノ繼承ニ於テ故障ナキヲ以テ毫モ杞憂スヘキニアラス曾テ清國全權公使ノ英國ニ在リテ其妻ヲシテ觀見ヲ請ヒシニ妻妾ノ區分疑フ可キヲ以テ許サレサリシト聞ク方今治外保權ノ堅城ヲ破リ條約ノ改正ヲ欲スルニ方リテ此刑法ヲ布クハ固ヨリ如此セサルヲ得サルナリ蓋シ現今國內人民ノ適度如何ニ對照セハ或ハ刑法改良ニ過キタリト云ハンカ而シテ尙ホ之ヲ斷行スル者ハ人民ヲ誘導スルノ主義ト外國條約改正ノ具トナスヲ以テナリ論者云ク刑法上妾ヲ保護セサレハ遂ニ廢妾ノ勢ヲナシ萬世一系

ノ帝統ニ關スヘシト是一ヲ知テ其二ヲ知ラサルナリ帝位繼承ノ法ハ憲法ヲ以テ定ム可キモノニシテ素ヨリ他ノ民人ト異ナリ故ニ萬世一系ノ悠久ニ對シ故障ナキハ無論刑法上ニ於テ妾ヲ保護セサルモ之ヲ廢セシムルニ非レハ妾ヲ聘シテ妨ナク且嫡庶子ノ分ヲ正シ民法上相續法ニ支ヘナケレハ毫モ懸念アルコトナシ現今其實妾ノ如キモノヲ蓄フルモ之ヲ戶籍ニ登記シ法律ニ公認スヘキ者ハ華族又ハ富者ニ過キス其數最モ僅ヤナリ故ニ全國人民ニ對スル刑法ニ於テ之ヲ保護セサルモ何ノ不可カアラン又妾ヲ親族ニ列センカ乃チ祖父及父ノ妾兄弟ノ妾ハ之ヲ親屬ニ列セスシテ何ソ獨リ己ノ妾ノミニ止マルヤ若シ之ヲ祖父父兄弟ノ妾ニ及ヘハ人倫彝叙ヲ紊亂ス可シ又妾ニ人員ノ限制ナケレハ多數際涯ナキノ弊ヲ生スルヤ必セ

リ妾ヲ親屬ニ加フ可ラサルハ一之ヲ推スモ知ルヘシ論者又曰ン他人若シ妾ニ私通シ法律ノ間フ可キナキハ如何ト本官思ラク妾ハ雇人ナリ其解雇ハ容易ナリ之ヲ放逐シテ可ナリ之ヲ親屬ニ加ヘハ猥雜ニ堪ヘス之ヲ親屬ヨリ除ケハ固ヨリ刑法上ニ保護スルノ理ナシ抑此刑法ハ廣ク歐洲文明國ノ成法ヲ參酌シ以テ善美ヲ求メ彼我比肩並馳セント欲スルハ實ニ曠代ノ偉業ナリ宜ク刑法ヲ以テ妾ヲ保護スルノ非ト及ヒ全ク廢妾ト爲スニアラサル旨ヲ理會スヘシ

○議長 十九番ノ建議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 少數ニヨリ十九番ノ建議ハ消滅ス時已ニ正午ヲ過ルヲ以テ午餐ノ爲メ散會セヨ

午后零時十五分開場

午後第一時五分開場

欠席議員 十四番 黒田 清綱

同 十五番 大給 恒

同 廿七番 楠本 正隆

○議長 午前續キノ會ヲ開ク十四番十五番廿七番ハ事故アリ退席ス

○廿六番 伊丹重賢 十九番再修正ノ建議ハ午前ニ於テ消滅セリ然ルニ既

ニ修正委員ニシテ之ヲ不備ナリト明言セシ本案ナレハ其議場ニ採用セラレサルハ知ル可キナリ故ニ本家中妾ノ存廢如何ヲ衆議ニ決セハ一呼吸ノ間ニ其可否ヲ判定スルニ足ル可シ是ヲ建議ス

○十二番 岩下 方平 賛成

○三十一番 箕作 麟祥 賛成

○議長 廿六番ノ建議ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者四人

○三十三番 本田 親雄 議長ノ宣告明了ニ聞キ得サルヲ以テ本官ハ起立ニ惑ヘリ一回ノ明解ヲ乞フ

○議長 廿六番建議ノ要旨ハ再修正ノ建議ハ午前ニ消滅シ勝敗已ニ決シタル者ノ如シ故ニ妾ノ字ノ存廢ヲ決セハ可ナリト云ナリ

○廿六番 伊丹 重賢 本官ハ姑ク勝敗如何ノ論ヲ措キ修正委員ノ不備ナリト明言セシ法案ヲ討論スルハ無益ナリ故ニ單ニ本案中ニ妾ノ字ヲ存ス可キヤ否ヤヲ決セハ可ナリトスルニ在リ

○議長 三十三番ハ宣告ノ不明瞭ナルヨリ起立ニ迷ヒシト云フ本案ハ緊要的ノモノナルヲ以テ一人ト雖モ起立ニ迷フモノハ遺憾ナルヲ以テ更ニ決ヲ取ル可シ

○四番 津田 眞道 本官モ三十三番ト同感ナリキ廿六番若シ獨リ第百十四條ノミナラス修正委員ノ報告セシ條々中ニアル所擧テ妾ノ存廢如何ヲ決ス可シトセハ簡便ノ法ナルヲ以テ賛成ス

○議長 廿六番ニ問フ總テ本案中ニ在ル妾字ノ存廢如何ヲ決スルノ主意ナリヤ

○廿六番 伊丹 重賢 到底妾ニ關スル修正案ナルヲ以テ其妾ヲ刪ルニ決セハ他ハ自然消滅スルモノナリト信ス

○八番 細川 潤 次郎 本官思フニ前會ヨリ猶第百十四條ヲ以テ問題ト爲ス